

3-6 11月の進捗

3-6-1 11月の活動概要

本年6月以後本格化した ASDP 見直し作業のフェーズ1が、ASDP 枠組み書 (ASDP Framework & Process Document) の完成及びドナーへの正式報告をもって完了した。フェーズ2では、Framework & Process Document にて提案されている ASDP Sub-Programme and Components (優先実施事項) の具体的内容を詰めつつ、支援可能なドナーが存在した場合には直ちに実施に移行したい、というのがタンザニア政府の考えである。

DADP 策定ガイドラインに関しては、最終ドナー統合コメントをコンサルタントに送信しており、最終報告書を12月上旬に入手する予定である。

調査団は上記に関係する各種業務に従事した。具体的には、ワークショップへの参加、会議への出席、コメント作成等である。図表9には11月中に調査団が関わった主要な出来事をまとめた。

図表9 主要活動の一覧

Date	Day	Activities		
		ASDP related meetings (FASWOG Taskforce, etc.)	DADP related meetings	RADAG team meetings
1-November	Fri			
2-November	Sat			
3-November	Sun			
4-November	Mon	FASWOG		
5-November	Tue			
6-November	Wed	Meeting with Ms. Bitegeko (MAFS)		
7-November	Thu		RADAG Comments on 3rd draft distributed to Donors and MAFS RADAG visits Mkranga District	
8-November	Fri			
9-November	Sat			
10-November	Sun			
11-November	Mon			Meeting at JICA office (w/Mr. Hanatani)
12-November	Tue		Meeting with SG2000 Expert (MAFS)	
13-November	Wed			
14-November	Thu			
15-November	Fri			
16-November	Sat			
17-November	Sun			
18-November	Mon			Meeting at JICA office (w/Mr. Hanatani)
19-November	Tue			
20-November	Wed		Meeting with Ireland Aid for DADP Guidelines	
21-November	Thu	ASDP Government Donor Round Table Meeting		
22-November	Fri			
23-November	Sat			
24-November	Sun			
25-November	Mon	IFAD Presentation to Taskforce members (at MAFS)		
26-November	Tue		Meeting with Ms. Bitegeko (MAFS)	
27-November	Wed	Meeting with External Relation Officer (MoF)		
28-November	Thu			
29-November	Fri	Taskforce Donor Meeting at Ireland Embassy		Meeting at JICA office (w/Mr. Hanatani & Ms. Matsushita)
30-November	Sat			

： Saturdays, Sundays and public holidays

(出所：調査団作成)

3—6—2 11月の活動の注力点

調査団が11月に注力した業務は以下の点である。

- Taskforce 等会合への出席と概要録（日本語・英語）の作成
- DADP 策定ガイドラインドラフトに対するコメント作成及びドナーとのコメント内容に関する調整
- DADP 策定支援に関する検討

3—6—3 各種会合

(1) 進捗

以下の各会合に参加し、議事録作成、コメントの作成等を実施した。

(1) 11月4日 FASWOG

会議のポイント：およそ1年振りの農業関係ドナー全体会合であった。前月4日及びその翌週開催されたMAFS&ドナー小会合にてASDP運営体制の合意がなされたのを受け、MAFSは見直し作業フェーズ1の実質的な完了を確認している。本FASWOGは、ASDP見直し作業フェーズ1の進捗の報告を農業関係全ドナーに正式に打診する事を目的に開催された。以下がMAFS側説明の要点である。

ASDPの見直し作業フェーズ1の主な成果は次のとおり。①当初22に分かれていたサブ・プログラムをA、B、Cの三つに括り直し、優先実施事項を提案した。②ファンディング方法（モダリティ）については、バスケット・ファンディングだけではなくいろいろなファイナンスの方法を認めることにした。

見直し作業フェーズ2では①ASDP Secretariat の設置、②DADP ガイドラインの完成、③2003/2004Quick-win の特定、④優先実施事項タスクフォース（TF）の設置及び内容の具体化、⑤モニタリング・評価の枠組みの決定、などを実施したい。

ASDP Framework & Process Document は配付するが、コメントの受け付けや改訂は行わない。またあえて了承のための会合は開かない。

11月21日の正式会合であらためて具体的報告をしたい。

・その他のポイント

IFAD、AfDB、Ireland Aid の財政的支援を受けて、MCM 及び PMO を主たる実施機関とした新たなプロジェクトである Agricultural Marketing System Development Program (AMSDP) の報告が IFAD 備上コンサルタントより行われた（資料57）。AMSDP では関係省庁との調整を行う全体会合の議長役は首相府（PMO）が担う事となっている。そのため“農業関係省庁である MCM が議長でない事には、オーナーシップ欠如である”として ASDP Taskforce 一部ドナーから厳しく指摘されている。また農業開発の全体計画である ASDP の中に AMSDP は位置付けられるべきところ、最近になるまで ASDP Taskforce は AMSDP の準備について一切しられていなかった事などについても会合出席者から批判的な意見が出された。

会合終了時における調査団の分析

ASDP Framework & Process Document への（ドナー）コメントは既に十分に反映したとして、“完了のためのドナーの了承は不要”という MAFS 次官の発言から、ASDP プロセスに対するタンザニア政府のオーナーシップの高まりを感じざるを得ない。

AMSDP に関しては、ASDP との関係性を踏まえた上、その構成内容や実施方法につき、更なる検討が必要であろう。資金提供のドナーである Ireland Aid が、ASDP 策定支援の主要ドナーであるにも関わらず、AMSDP という新プロジェクト情報を他の ASDP Taskforce ドナーと共有しなかった点は問題である。またセクタープログラムである ASDP 策定においても議論となったタンザニア政府のオーナーシップをも蔑ろにしている面も問題である。例えば、AMSDP でも ASDP 同様に、その実施のために事務局を立ち上げるが、構成員は民間から公募する事となっている。ASDP 見直し作業でも当初は事務局構成員を民間から公募する事が提案されていたが、ASDP Taskforce ドナーから「それでは MAFS 等のオーナーシップが薄くなり、持続性も脆弱になる」と強い反発があり、結果的に ASDP 事務局は MAFS 等農業関係省主導で構成される事となった。そのような経緯の一当事者である Ireland Aid が、これまで批判してきた事を、別案件では受け入れようとしている点は矛盾という問題を孕んでいるだけでなく、ドナー間の援助協調の観点からも問題と考える²⁵。なお、本件に関しては、Ireland Aid は他ドナーの理解を得るべく、11 月 25 日には ASDP Taskforce ドナーを集めて IFAD コンサルタントから再度説明を実施させ、AMSDP は来年 3 月までに内容を確定すべく現在調査を進行中であり且つ ASDP と二重の動きをせずにその傘下で実施する方向性で考えている旨の説明がなされた（資料 6 1）。また Ireland Aid は更なる関係調整を眼目に、11 月 29 日にドナーを集め協議している。

(2)11 月 20 日 Ireland Aid との DADP 策定ガイドラインに関する協議

会議のポイント：11 月 15 日（金）、DADP 策定ガイドラインの第 3 ドラフトに対し Ireland Aid がコメントを送信し、他ドナーへの転送を依頼してきた（資料 5 8）。文面からは「JICA が作成のため出資した事実を蔑ろにした上で、Ireland Aid が更に別のコンサルタントを傭上しファイナライズさせる=DADP 策定ガイドライン完成の栄誉を JICA からかすめ取る」という解釈も可能であったため、他ドナーへの転送は差し止め、まずは Ireland Aid 側の説明を受ける事とした。

協議の結果、コンサルタントが Kilosa 等で実際に自ら行ったワークショップの模様を、分かりやすく解説した簡易マニュアルを資料として添付させる事を主たる修正事項としてコンサルタントに指示し、契約を早期に完了させる方向性に関する同意を得た。

・その他のポイント

DADP 策定ガイドライン作業完了後、同ガイドラインを使い幾つかの District にて DADP を試験的に策定する点も提案し、同意を受けた。調査団からは、デンマークやアイルランドのように以前から District の計画策定支援をしている場合はその District で行う事も提案した。

その後デンマークから送信されたコメント（資料 5 9）も取り込んだドナー統合コメント（資料 6 0）を下に MAFS 計画局長と調査団は協議を（11 月 26 日に）持った。コメント内容に同意を得た後、同局長名により、ジンバブエの DADP 策定ガイドラインのコンサルタントに即座に送信された。

²⁵ JICA 事務所が Ireland Aid から受けた説明によれば、当該新プロジェクトはアイルランド本国主導で進められており、タンザニア現地のアイルランド大使館は知らされていなかった、という事である。

会合終了時における調査団の分析

Ireland Aid は、本年 12 月まで消化したい予算を持っているようで、当初、DADP 策定ガイドラインの作業終了を、別のコンサルタントを傭上する事で、またワークショップ等を開催する事で解決案を提示された。この情報は事前に JICA 事務所より入手していたものの、同協議でもあらためて先方から示唆された。今後も Ireland Aid とは友好的協調関係で付き合いをすべきであり、その観点から、Ireland Aid の希望が叶うように、完了した DADP 策定ガイドラインを検討するワークショップ的なものを開催する事等を先方が提案した際には、JICA としては協力姿勢を示すべきであろう。

(3) 11 月 21 日 ASDP ドナー Round Table Meeting (案内書、優先実施分野表は資料 6 2)

会議のポイント：本年 5 月以後開始された ASDP 見直し作業フェーズ 1 が完了した事を受け、成果物としての「ASDP Framework and Process Document」要旨を MAFS よりドナーに対し報告がなされた。ドナーはその報告を受け、各々が今後 ASDP に記載されたどの分野への支援を進めていくのか、意思表明を行った（要点その他は資料 6 3 を参照されたい）。意思表明を受け、ASDP 事務局（見直し作業にて提案され、新たに立ち上げられる予定）が、分野毎に設置をする TF にどのドナーが参加をする事になるのか、素案が翌週メールにてドナーに回覧される事となった（素案は資料 6 6）。

会合終了時における調査団の分析

資料 6 3 から分かるように、かなりの数のドナーが出席していた。しかし多くのドナーが ASDP において今後どのように関わるのかについての公式な回答を準備していなかった（MAFS からの同会議の主旨説明や連絡等が充分でなかった可能性は否めず、このような事務面の能力向上においても支援は今後必要であろう）。

最も具体的に支援分野を表明したのは日本であった。会議の最後に、MAFS 次官より日本（及び FAO）に対し、これまでの協力に対する労いの言葉及び今後の更なる協力の要請が会議上発せられた。昨年の ASDS 策定支援以来、事務局として MAFS を支援してきた日本に対する信頼感が満ちあふれた一言から、我が国へのタンザニア政府の期待の大きさが再認識されたものと理解している。

(2) 関係者の投入実績

ASDP 見直し作業フェーズ 1 の完了が着実なものとなるべく、各種会合（フォーマル、インフォーマル双方）にて JICA 事務所は積極的に発言や会議のリードを行っている。また会合の前後では、プロセスの円滑化に資するよう、メールや電話等で、関係ドナー間の調整を積極的に行っている。

他ドナーにおいては Ireland が IFAD に関わる情報提供やドナー間打ち合わせを実施するなどの動きがあった。

調査団は前記 JICA 事務所の動きを支援すべく、出席指示のあった会合での概要録作成及びコメントを行っている。また JICA 事務所の指示の下、単独で関係ドナーとの調整も積極的に行った。

3—6—4 ASDP 見直し作業

(1) 進捗

既述のように、ASDP 見直し作業フェーズ 1 は完了し、来月以後はフェーズ 2 に移る。今月の成果物等を整理すると以下の通りである²⁶。

- 11 月 9 日 MAFS より ASDP Framework and Process Document が提出、送付
 (ASDP Framework Document の要約版和文は、資料 6 4)
- 11 月 9 日 11 月 21 日の Roundtable 用資料が関係ドナーに送付 (資料 6 2)
- 11 月 28 日 ASDP 優先実施事項検討 TF 素案がメールにて回覧 (資料 6 6)

3—6—5 DADP 策定ガイドライン

DADP 策定ガイドライン第 3 ドラフトに関するドナー間の意見調整を行った後、ジンバブエのコンサルタントに最終コメントを送付している。11 月 29 日には当該コンサルタントより最終確認のためのメールが JICA 事務所に返信されている。

3—6—6 その他

(1) DADP、ASDP 関連情報収集及び説明のための協議

前月と同様に、調査団は ASDP 及び DADP 策定に資する事を目的に、他の関係機関との意見交換等を実施した。世銀プロジェクトと連携関係にある笹川グローバル (SG2000) 派遣 MAFS 専門家及び IFAD コンサルタントによる説明会にて意見を交わしたタンザニア政府財務省の職員に対し、ASDP の説明及び DADP 策定支援等における留意点につき意見聴取等を行っている。

(2) 日本国内での支援業務

11 月 21 日の ASDP Round Table meeting にて、日本としての ASDP 支援分野を表明した事は既述の通りだが、その分野を確定するために東京で外務省、JICA の間で協議の場があった。調査団からも 1 名が ASDP の現況報告を行うという位置付けで参加している。

(3) 地方道路調査関連の情報収集

我が国による ASDP 支援分野の一つとして、地方道路の「調査」が提示された (資料 6 3)。本格的な支援は来年 1 月以後に開始されるものと想定され、その準備の一環として、調査団では関連情報の収集を開始しており、来月も続行する予定である。

²⁶ ASDP Framework and Process Document の日本語概要は、プログレスレポート 4 に掲載予定である。

3-7 12月の進捗

3-6-1 12月の活動概要 (12月1日から12日まで)

12月2日～5日はCG会合でJICA事務所を含め各ドナー及びタンザニア政府機関も多忙となったため、また12月6日～9日はラマダン明け及び独立記念日に関わる休・祭日が連続した。このため、調査団の活動も制約された。

図表10 主要活動の一覧

Date	Day	Activities		
		ASDP related meetings (FASWOG Taskforce, etc.)	DADP related meetings	RADAG team meetings
1-December	Sun			Preparation of Progress Report
2-December	Mon			
3-December	Tue			Meeting at JICA office (w/Mr. Aoki, Mr. Hanatani and Ms. Matsushita)
4-December	Wed	Meeting at JICA office (w/Mr. Evans Ntagwabira, POLARG/District and Chief of Road Fund Management Unit, Mr. Hanatani and Mr. Kobayashi)		
5-December	Thu			
6-December	Fri			
7-December	Sat			
8-December	Sun			
9-December	Mon			
10-December	Tue	FASWOG TaskForce		
11-December	Wed			Meeting at Japanese Embassy
12-December	Thu	★ Leaving for Japan		
13-December	Fri			
14-December	Sat			

： Saturdays, Sundays and public holidays

3-6-2 12月の活動の注力点 (12月1日から12日まで)

調査団が12月に注力した業務は以下の点である。

- Taskforce 等会合への出席と概要録（日本語・英語）の作成
- 地方（農村）道路調査関連の事前支援

3-6-3 各種会合

(1) 進捗

以下の各会合に参加し、議事録作成、コメントの作成等を実施した。

(1) 12月10日 FASWOG タスクフォース

会議のポイント：

・10月24日にMAFSより提出されたASDP Secretariatの予算案の修正版（資料65）について検討された。ドナーより、様々なコメントが出されたが、その殆どが、i) 予算の根拠が不明確である点、ii) 10月24日の会合で、「Secretariatは当面プログラム・コーディネーターとプログラム・スペシャリストの2人体制で開始される」ことが関係者の間で合意されたにもかかわらず、予算には5名で予算が計上してあった点、の2点に議論が集中した。予算案の修正作業はさらに続くものと思われる。

・ASDP のサブ・プログラムのタスクフォースについて、事前に MAFS より配付された資料（資料 6 6）を基に、ディカションが行われた。4 つのタスクフォースについては概ね合意され、今後は、各タスクフォースの TOR 案が作られた段階で、さらにタスクフォース立ち上げの具体化が進むことになる。

・その他のポイント

10 月 24 日に、DFID が ASDS/ASDP の普及に興味があり資金供与したいと申し出たのに対し、MAFS は正式に要請のレターを出した。DFID は、これを受けて、資金投入のバスケットが、①新しい ASDP の実施体制で作られるバスケットか、それとも②これまでのバスケットなのかを明確にして欲しいと伝えた。結局、①新しい ASDP 実施体制が整うまで、古いアカウントの使用を延長する、②新しい体制が整い次第、詳細を明らかにして、その後新しいアカウントを設置する、そして③DFID の資金は以上の状況を踏まえて、MAFS と DFID で協議の上決定する、ことに決定した。

ASWG(Agricultural Sectoral Working Group)が、PER 2003 のプロセスを進めているが、DFID より ASWG 自体、十分に機能していないのではないかと指摘があった。ASWG の役割等を規定した Framework の必要性が関係者の間で認識された。

PER のプロセスで、ESRF をコンサルタントに雇うことを考えている旨、MAFS より説明があった。他に、ドナーから推薦がなければ、ESRF が担当コンサルタントなる。

会合終了時における調査団の分析

FASWOG タスクフォースは、今後 Agriculture Sector Working Group (ASWG) になることになっており、既に PER03 プロセスにかかる作業を進めている。しかし、依然その役割の範囲は不明確なままであるため、今後詰めていく必要があるだろう。また、ASWG とこれから立ち上がる 4 つの Task Force との関係も不明確であるため、ASDP 実施体制全体を明確にする必要性がある。

会合では相変わらず、EU (Ria)、DFID (Riz)、およびデンマーク(Ana Marie)の 3 者が仲良く席を列ねて何やら話し合いながら、それぞれの考えが一致していることを確認しながら発言しているようである。ドナーで集団意志を形成し MAFS にプレッシャーを与えるという構造は ASDS の頃からずっと変わらない。その中心には常に EU がおり、ASDP 策定に入ってから、この中心に DFID も加わった。ドナー間のパートナーシップも大切であろうが、タンザニア政府とドナー間のパートナーシップの構築は、彼／彼女等がいる限り難しいであろう。

3—6—4 DADP 策定ガイドライン

11 月末、DADP 策定ガイドライン第 3 ドラフトに関するドナー間の意見調整を行った後、JICA 事務所は MAFS を通じてジンバブエのコンサルタント (Macpherson Consulting) に最終コメントを送付している。11 月 29 日には当コンサルタントより最終確認のためのメールが MAFS の Ms. Bitegeko に返信され、12 月 2 日、これに対して、JICA 事務所は MAFS の Ms. Bitegeko に確認内容に対する返答案を示した。その後、12 月 3 日には、結局 JICA 事務所が MAFS の代表という形でコンサルタントに直接確認への返答を行った。

その後、12 月 11 日、ようやく Macpherson Consultant より、DADP ガイドライン第 4 版が JICA と MAFS に向けて提出された。しかし、第 4 版は 11 月末に提出されたコメントに基づき修正されるはずであったにもかかわらず、コメントを十分に反映していない状態であった。Macpherson Consultant にはこれ以上修正する意志が感じられないことから、JICA

事務所は第4版を引き取りことに決め、調査団により修正作業が続けられることになった。12月23日のタスクフォースまでには、i) 第4版修正版を完成させて、ii) ドナーに根回しを行い、iii) タスクフォース当日には DADP ガイドライン最終版の発表、という段取りで進められる予定である。

3—6—5 その他：地方（農村）道路調査関連の事前支援

ASDP に関連して、農村道路調査の話が出てきた経緯は次の通りである。

- ・ ASDP が農村インフラのニーズ確認をサブ・プログラムとして取り上げた。
- ・ それを受け、MTEF が ASDP Quick Wins の一つとして農村道路調査を採択。
- ・ 日本政府がその農村道路調査に関心を表明。
- ・ 農村道路整備体制強化は世銀 PRSC の条件（PAF）ともなっている。

（1）地方道路調査に関する PORALG との連携支援

日本政府は関心を表明した農村道路調査への関わり方についての検討段階に入っている。県レベル以下の農村道路計画やその実施は PORALG および県の関わりが必要不可欠であり、PORALG を中心とした本道路調査の実施とそれに対する日本の支援、という関わり方が考えられる一つの方向性である。

こうした中、12月4日には JICA 事務所に、PORALG の Mr. Evans Ntagwabira（道路基金ユニット、モニタリングおよび調整担当官）が訪れ、JICA 事務所および RADAG と意見交換を行った。JICA 事務所と Ntagwabira 氏との間で合意した内容は以下の通り。

- ・ Ntagwabira 氏が本件を POLARG の Director for Planing に報告する。
- ・ JICA は本件に関し、今後 Ntagwabira 氏を窓口とする。
- ・ Ntagwabira 氏は、RADAG の提案ペーパーにコメントする。

RADAG は、この打ち合わせの前に「農村道路整備指針策定調査：作業指示書の骨子案 - 地方分権化、民間重視への対応 -」を作成し事前に JICA 事務所と打ち合わせた上で、当日はこれを英文にした「Rural Road Improvement Strategy (RRIS): Focus on Local and Private Initiatives A Tentative Study Proposal」（資料 67、68）を先方に配り説明した。

（2）地方道路調査関連の情報収集

地方道路調査の本格的支援は来年 1 月以後に開始されるものと想定され、調査団は、その準備の一環として関連情報の収集を 11 月より開始しており 12 月もこれを続行した。

3-8 ASDP 見直し作業および DADP ガイドライン策定における関係者の投入実績

本フェーズ3（その1）に関係者による特記すべき新たな投入は次の通り。

ASDP 見直し作業：

- ・ ASDP 見直し作業へのコンサルタント（FAO-IC）の投入
- ・ 農業省による見直しチームの投入
- ・ 農業省をファシリテートするコンサルタントの投入（Korongo Ltd.）

DADP ガイドライン作成：

- ・ ドラフト作成のためのコンサルタント（Macpherson Consulting）の投入

日本はこの中の DADP ガイドライン作成のためのコンサルタント備上費用を負担した。次表は投入実績の全体概要である。

図表 1-1 関係者の投入実績要約

Contribution	MAFS	Japan	Other Donors
Financial	Costs on the round table meeting (Nov.21) upon completion of the ASDP framework documents	JICA: consultant fee (Macpherson Consulting) for preparation of the DADP guideline	WB: fee for hiring of consultants of FAO Investment Center to support a review on and refinement of the ASDP
Logistical	<u>FASWOG Taskforce:</u> ・ Provision of meeting spaces ・ Preparation of documents for meetings ・ Circulating information/documents regarding the ASDP/DADP on necessary basis	<u>Secretariat for FASWOG Taskforce:</u> ・ Setting up of meetings ・ Circulation of invitations of meetings ・ Preparation of minutes ・ Circulation of information relating to the ASDP/DADP among donors	<u>Informal Donor Meeting</u> FAO: provision of a meeting space (July 22, and Sep.24)
Manpower	・ Chairing on FASWOG Taskforce (PS) ・ Attendance at meetings (at least one personnel from Dept. of Policy and Planning dealing with administrative and sometimes substantial matters) ・ Revision of the ASDP Framework Document with a consultant (Korongo Ltd.) ・ Setting up of the secretariat of the ASDP Working Group	・ Attendance at meetings regularly one from JICA, one from RADAG, and sometimes one from the Japanese Embassy ・ Provision of technical advise on consultants working on the DADP guideline ・ Provision of comments on the ASDP and DADP guideline ・ Compiling comments on the ASDP/DADP from donors	・ Attendance at meetings regularly one or two from each donor ・ Provision of comments on the ASDP and DADP guideline

出所：調査団

4. 本フェーズまでの調査団の貢献と技術協力の成果にかかる考察

以下には、本フェーズまでに調査団が行ってきた貢献を整理し、技術協力の成果、特にオーナーシップの醸成に本件がどのような影響を与えてきたかを考察する。

4-1 本プロセス支援型調査におけるこれまでの調査団の貢献： この2年を振り返って

(1) 援助協調をリードした日本の事務局機能と事務局機能補佐役としての調査団の貢献

2000年12月、日本が農業セクターで主導権を発揮する旨を明らかにした経緯から、ASDP策定プロセスにおける事務局はJICAが担うこととなった。当初、JICAはASDP策定支援を表明した6ドナー間の意見の集約を行う調整機能となる予定であったが、農業食糧保障省が十分な事務局機能を果たすことができず、そのことが時折ドナーから反発を招く結果となったことから、漸次JICAが実質的な事務局機能を担う体制となった。図表6には事務局としてJICAが実施した業務内容と調査団が行った事務局業務を整理した。

図表12 事務局としての農業食糧保障省、JICA、および調査団の業務

業務	担当	農業食糧保障省	JICA事務所	調査団	備考
関係メンバーへの会議日時等の情報の提供 事務連絡		○	◎	△	本来は農業食糧保障省が主体 FAX、E-Mailを活用
各種書類の送付		◎	△		遅れることが多い
会議議事録作成・修正				◎	英語にて作成
ドナー側小会議の設定・連絡			◎		
ドナー側意見の取りまとめ			◎	○	ASDP策定支援ドナーの統一 意見を作成

◎：主体として遂行、○時折遂行、△主体を補佐
(出所：筆者作成)

図表12からも分かるように、事務局機能はまさに「事務」の取りまとめ役であるが、これらは援助協調を持続的なものとする上で欠かせない触媒的機能とも言える。複数の案件や業務を抱えたドナーの担当者全員が常時ASDP策定支援プロセスに参画できるというわけでもないため、支援プロセスが滞りなく進捗するためには事務局がプロセス全体を細部に亘って把握しつつ必要作業を継続的に行う必要がある²⁷。事務局であるJICAは、当然すべての会議に参加し、会議開催連絡が関係者に行き渡ったかその確認も行い、また、時にASDP策定に関わる各ドナーの個別見解を取りまとめた上で、ASDP策定支援ドナーの統一意見も作成する。図表6では書類の送付は農業食糧保障省の役目となっているが、会議開催前に、関係者全員に届くことは稀であり時折事務局がフォローをする必要があった²⁸。JICA事務所は通常業務を遂行する傍らで、事務局としてこれら業務も担っており、調査団もその補強をする役目として貢献を果たしてきた。

²⁷ 2002年11月以後のASDPプロセスにおいては農業食糧保障省職員が正式な事務局メンバーとして配置されることとなった。

²⁸ 農業食糧保障省オフィスに電気が来ないためにコピー機やファックスが使えないこともしばしばである。

(2) JICA 事務所の代弁者としての貢献

ASDP 策定に関わる会議は、農業食糧保障省次官により公式会議として頻繁に開催されてきた。この公式会議以外でもドナーだけの会議、事務局としての農業食糧保障省との個別交渉の場などが、ASDP 策定支援に関わる意思決定や調整の場がもうけられた。それら会合の場の殆どに調査団は JICA と共に、また時には単独で臨み、議事概要録作成の他適宜援護射撃的な発言を行うことで JICA 事務所の主張が会議上通るべく支援を行い、また JICA 事務所の代弁者として直接意見することもあった。以下に幾つかの場面にて調査団が果たした重要な JICA 事務所の代弁者としての活躍について簡単にまとめた。

① 有力ドナーとの綿密な接触の維持

調査団は、JICA 事務所員として、ASDP 策定支援ドナーだけの小ミーティングの多くに参加しコメントを行ってきた。また、会合以外でもドナーはそれぞれが食事会等を企画し、情報交換や意見の確認を行う。日本の援助関係者は一般的に「業務」以外の場面で他ドナーと接触することには慣れておらず、他ドナーから見れば、「ドナーの輪に入らない日本人」という見方をされていた。JICA 事務所では ASDP 策定支援が始まる直前より、少しずつ、業務時間外での他ドナーとの接触を試みるようになった。調査団も、会合以外の場でのドナーとの接触時間を作るように試みた。日本が農業セクターへの援助に関し、どのような考えを持っているのか、日本の援助形態がどのような特徴を有しているのか、あらゆる機会を利用してその流布に努めた²⁹。

② 農業食糧保障省との個別協議実施による日本の影響力の維持

農業食糧保障省と JICA は ASDP 策定に関し頻繁に個別協議を行っている。本来ならば、ASDP 策定支援は援助協調を基底としているため個別交渉は避けるべき行為である。例えば、策定プロセス開始初期の頃には一部ドナーが個別対応を頻繁に行ったことに対して他ドナーが非難している。しかし、日本は JICA 事務所が事務局を担当している立場を利用して農業食糧保障省と相対で ASDP 策定に関する議論を交わす機会を幾度も設けている。調査団も、JICA 事務所了解の下、農業食糧保障省に赴いてまたは電話にて意見交換を行うこともしばしばあった。これら業務は日本を不利な立場に導かないための一定効果を上げている。例えば、後述の通り、援助モダリティの議論が持ち上がった時に、保健、教育セクターに見られるような「コモンバスケット一辺倒」のような状況が避けられた点がある。

③ コモンバスケットファンド一辺倒の回避

セクタープログラムである ASDP では、ドナー援助を個別プロジェクト方式ではなく、一つの口座に原資を一旦集約しそこから ASDP の内容に基づき支出する、というコモンバスケットファンド (CBF) 方式の採用を検討していた。しかし、日本は、主要な援助形態として個別プロジェクト方式をとっていることから、CBF 方式への急転換は日本の対タンザニア援助全体の再編成を意味していた。特にアイルランドとデンマークが CBF による ASDP 実施を主張していたが、CBF 方式一辺倒を避けるために、会合毎に反論を示すなど、多様な援助資

²⁹具体的には、日本の援助が要請主義であること、開発調査、専門家、無償資金協力等多くの援助の形態が人や物を送るという In-Kind な方式であることの説明を指す。

金の投入方法の必要性を各ドナーが認知するよう JICA 事務所とともに調査団は様々な働きかけをしてきた³⁰。実際に、この働きかけが効を奏し、農業セクタープログラム全体が CBF 方式に転換するのを回避することができた。その中でも決定的だったのは ASDP 資金メカニズムを考案する作業グループに調査団（が JICA 事務所員として）直接参入した点である³¹。

④ タンザニアでのセクタープログラム推進主要人物とのパイプの確立

ASDP 策定支援が開始された頃、調査団は、PRSP を含むタンザニアにおける近年の援助動向に大きな影響を与えてきた世界銀行の Ndulu 氏と会合の機会を数度設け、ASDP 策定支援に係る世銀の意見を聴取し、支援プロセスのリードのあり方に関し大変有用な示唆を受けている。示唆を受けると同時に同氏に日本援助の実情を理解せしむことも（ASDP 策定支援の一環として）意識しつつ意見交換をしている。また、IDCJ は、毎年 JICA の委託により実施している開発問題に関する専門家の招聘事業を通じて、平成 13 年 11 月に Ndulu 氏を日本に招聘し講演会等を開催した。世界銀行のタンザニア援助の最大ドナーである世銀主要関係者をこのような形で日本に招聘した事実は、ASDP 策定支援プロセスを円滑に進めるために大きく貢献したといえる。

（3）地方開発、農業開発における専門的インプットにかかる貢献

セクタープログラムは特定セクターにおける国家開発のための枠組みであり、全体計画的および予算計画的側面を有している。セクタープログラム参画ドナーは、その枠に沿った資金投入もしくはプロジェクト投入を考えてなければならない。このため、調査団は、「ASDP の中に日本の援助をどのように位置付けるべきか」を提言するための基本情報の整理・分析、また「農業開発を進めるのに必要な資金をタンザニア政府予算からどのように調達をするのか」というような財政面の情報の収集・分析を行った。以下はこうした作業の中の主なものである。

① ミニセクター調査（農業背景調査）の実施

ASDP は、タンザニアで農業開発を進める上での最上位計画と言っても過言ではない。即ち、ASDP に記載されている以外の内容で援助を行うことは理論上あり得ない。調査団は、ASDP に沿って「今後日本が実施したい案件」または「タンザニアにとって必要な案件」が何かを特定できるような農業背景調査の実施が有用であると考えていた。調査団は数カ月という短期間に、農業 6 分野で調査を実施し、ミニ農業セクター調査的な業務を実施した³²。報告書は英語で作成し、農業食糧保障省および他ドナーへ調査結果を発表する場を設けた。農業背景調査を ASDP 策定関係者に披露したことは、日本が農業分野において何を考えているかを他ドナーが初めて総体的に認識することができた点において重要な貢献をしたと考えている。実際にこの報告は他ドナーから高く評価されている。同調査は、日本が ASDP にて実施すべき支援の方向性検討の一助となっただけでなく、援助協調の観点からも有意義なものであったと言えよう。

³⁰ 大使館においても大臣等高官対象に同様の主張が繰り返して行われており、オールジャパン的対応が実践されていた。

³¹ 2002 年 2 月に約 3 週間、タンザニア政府財務省、保健省、Ireland Aid、JICA（IDCJ 調査団員）4 人が教育セクターの資金供出メカニズムを下地に作業をしている。

³² ASDP 策定の前、2 種類の戦略書（ASDS、RDS）が作成されており、タンザニア政府から見て必要な案件が何であるかは、ある程度は整理されている。

② 農業関係省庁および地方自治体に関わる予算と財政の調査の実施

既述のとおり ASDP は農業開発に必要となる「予算」の詳細にも言及するものである。予算化された資金の一部は中央省庁に流れ、その他は地方自治体に流れて執行されることになる。タンザニアではすべての援助資金がこうした流れの中に組み込まれていく方向にあることから、調査団は、援助資金の流れと予算執行におけるモニタリングの観点から、農業関係省庁および地方自治体に関わる予算と財政メカニズムの整理を行う調査を実施した。

③ 他セクタープログラムおよび他国農業セクタープログラムに関する調査

タンザニア国内では保健セクターおよび教育セクターのプログラム策定が先行している。ASDP 策定支援にあたっては、これら先行する 2 つのセクタープログラムの概要を把握することが有益と考えられたため、調査団は担当省庁、関係ドナー、JICA 専門家等から情報収集を行い、理解・分析を深めた。また、他のアフリカ諸国の中には、既に農業のセクタープログラム策定が先行して行われている国が多数あり³³、タンザニアでの ASDP の参考とするためにはそれらの現状把握が重要と考えられたため、隣国ウガンダでの農業セクタープログラムの実態調査の必要性を JICA に提案し、2001 年 11 月に実施されることとなった³⁴。

(4) 援助協調が維持されるための「思想的裏付けと開発トレンドへの理解」にかかる貢献

各ドナーが互いに協調関係を維持しつつ被援助国政府を支援することは、ヨーロッパの一部のドナーの間ではかなり以前から積極的に行われてきている。しかし、多数のドナーが一つの援助目標に向かい、協調関係を維持するのは易しいことではない。ましてやアフリカとの関係が相対的・歴史的に「浅く」また地理的に「遠い」日本が、旧宗主国であり且つ援助資源をアフリカに集中しているヨーロッパドナーを ASDP 策定プロセスに参加・協力をさせ続けるには、相応の援助協調にかかる「思想的裏付け」および「開発トレンドへの理解」が必要となる。このため、調査団は主に以下の作業を行った。

① 援助政策ペーパーの作成

他ドナーは自らの対タンザニア援助政策の基礎となる調査研究やセクタープログラム策定支援に関わる多くの研究を積み重ねている。他方、日本も外務省対タンザニア国別援助計画および JICA 対タンザニア国別援助実施計画等が作成されているものの、急速に展開されるセクタープログラム型支援、財政支援、援助協調等の動きの概括および分析作業は本格化されていない³⁵。このような状況を解消すべく、援助調整担当団員が文献レビューおよび ASDP 策定支援に関わるドナーへの聴き取り調査を行い、アフリカ援助における援助形態の考え方や今後の方向性を分析したペーパーを作成した³⁶。

② 報告書への経験の取りまとめ

³³ 高橋基樹、藍澤淑雄、佐々木亮、アフリカ農村における政府の役割：タンザニアにおける農業・農村開発セクター・プログラムの導入と日本の新しい取り組み、(IDCJ フォーラム No.22)、2002 年 3 月、p80。

³⁴ 実際には役務公示となり、他コンサルタント企業が受注している。

³⁵ まとまったものとしては次の報告書がある。

³⁶ 「Aid Modalities in Africa: Issues and Prospects」

調査団は、先方政府への報告書提出義務がないが、JICA へは従来の開発調査と同様に、インセプションレポート、プログレスレポートを提出することになっている。内容は ASDP 策定支援に関わる調査団の活動経過をとりまとめたものである。特に援助協調の実践、またプロセス支援というこれまでにない業務のあり方から抽出できる様々な経験も簡潔に取りまとめている。タンザニアにおける本件業務に関わる出来事は、日本の援助関係者の中でも殆ど経験がないことばかりであったため記録に残すことになった。仮に他国にて援助協調を主体とした業務に日本の援助関係者が関わることになった場合にも参考資料として使えることを意識して作成している。

4—2 技術協力の成果：

オーナーシップの醸成に本件がどのような影響を与えてきたか

ASDP 策定支援調査の目的は、従来型開発調査のそれとは種類が異なることから、それに就いて求められる成果も異なる。従来型の開発調査では、カウンターパート政府へ調査成果物を提出して活用してもらうこと、ならびに調査の実施過程において特定技術を移転することが目的となっている。一方、ASDP 策定支援調査では、タンザニア政府の行政プロセスの支援を行うことを目的とし、また、これによりタンザニア農業食糧保障省のオーナーシップを醸成することを成果の一部とする。調査団は、この目的に沿ってタンザニア政府のオーナーシップ醸成のために様々な行政プロセスを支援してきた。以下には、特に本フェーズの経験から、その「支援」について例示し、タンザニア政府がその支援によりどのような変化を見せてきたかを述べる。

(1) タンザニア政府のオーナーシップ醸成のための支援

事例1：「政府職員自身による ASDP 文書の策定」を主張

調査団は、JICA 事務所とともに、公式もしくは非公式の場で、積極的にタンザニア政府のオーナーシップを主張してきている。一貫して主張してきたことは次の通りである。

- ASDP はタンザニア政府が農業開発をより効果的に遂行するための“タンザニア政府”のツールであり、持続性を考えた場合、その実施においてもタンザニア政府がハンドルを握るべきである。
- 被援助国が相当の策定作業を自ら行った国はタンザニアが初めてといっても過言ではない。また他セクタープログラムと比べても柔軟性が高い。誇りに持つべきである。

調査団が JICA から受けた指示である「タンザニア政府による ASDP 策定」は、予測されていたタイミングよりも遅延したものの実現に至った。当初、ASDP 策定のためのコンサルタントをタンザニア政府が備上する案も検討されたが、調査団は、早い段階から JICA 事務所とともに、公式・非公式の場でタンザニア政府職員が ASDP 文書を作成するべきである点を主張し続けてきた³⁷。この一貫した主張は、タンザニア政府のオーナーシップ醸成に影響を与えてきた。

事例2：「政府職員自身による ASDP 実施事務局の運営」を主張

³⁷実際には成果物のとりまとめ作業等に外国コンサルタントを投入しているが、こうした作業の仕方は漸次解消していくことがドナーの総意として形成されつつある点は興味深い。

ASDP 策定プロセスは JICA が事務局を実質的に担うことで進んだ。しかし、これは「ASDP 文書完成迄」という関係者間の合意に基づくものであり、ASDP 実施段階では、JICA は事務局から手を引くこととなっている。一方で、ASDP 文書の骨格が完成するにつれて、関係者からは、その活動の実施には高い調整・実施能力を有する事務局の設置が提案されていた。このため、当初、農業食糧保障省は ASDP 実施のための事務局要員を、タンザニア政府「外」、つまり民間労働市場から募る考えであった。これに対して、一部ドナーは、「ASDP は政府の所有物であり、従って政府職員が直接運営するのが道理であり、持続性を持たせるための基本である」という方針を主張した。調査団も「タンザニア政府による ASDP 文書策定」の本質は「タンザニア政府による ASDP 実施」体制を確立することにあると当初から考えていたため、ドナー側の考えの統一や農業食糧保障省へ働きかけを行ってきた。結果、この働きかけが影響して農業食糧保障省がこの件について同意するに至った。

（２）技術協力の成果：政府職員自身によるセクタープログラムをリードする自信の萌芽

ASDP 策定支援が開始された 2001 年 3 月頃、関係ドナーの農業食糧保障省のプロセスへのオーナーシップに関し、懐疑的な見方がヨーロッパ系ドナーを中心に存在した。「Put the Recipient in the Driver's Seat」のかけ声の下、ASDP 策定プロセスが、どのようにすればタンザニア政府の所有物として持続性あるものとするか、関係ドナーは協議を重ねていた。2 年弱経った現時点では、ASDP がタンザニア政府の所有物であり続けるための基盤が形成されつつある。農業食糧保障省は、ドナーの支援を背後にしつつ、様々な圧力に抗してきたといえる。そして、その背景には上記の 2 例にあるような調査団による支援があったことを強調したい。

そもそも ASDP 文書は、その作成の必要性が PRSP にて指摘されただけでなく、重債務国の債務免除（HIPC イニシアチブ）を受けるための条件となっていた。タンザニア国外の圧力から ASDP 策定が始まったとも言える。また、外圧にともなう国内の圧力もあった。先行する保健および教育セクタープログラム策定から一歩で遅れているという精神的圧力、国家予算取得のための省庁・セクター間の競争にもよるものである。

このように、ASDP 策定は当初、農業食糧保障省がリードするには厳しい環境であったにもかかわらず、ASDP は農業食糧保障省を始めとする農業関係省庁が ASDP 実施の主体となりつつあり、また各種会合においても強いイニシアチブを発揮するようになっている。そしてイニシアチブ発揮の背景には、ASDP の重要性の認知、また ASDP 文書策定と実施におけるドナー、特に日本からの強い支持を裏付けとした一種「自信」のようなものが育ち始めている。ASDP 策定支援調査を継続する中で、タンザニア政府側がプロセスそのものを所有し、リードする自信をタンザニア政府内に移入することが、この技術協力としての開発調査における大きな成果である点を改めて強調したい。

5. 第5次現地調査（フェーズ3・その2）における業務概要（案）

5-1 業務の方針

フェーズ1以来、本調査団の基本方針として強調してきたように、タンザニア政府が持続的に ASDP を実施できるよう、タンザニア政府のオーナーシップ確保を十分に意識しながら作業を実施する。また、我が国と他ドナーとの協調関係が維持・発展されることも留意しつつ ASDP 及び DADP 策定支援を行う必要がある。

本調査の S/W 締結当時は、ASDS/ASDP の策定が遅々としている場合もしくは MAFS による ASDS/ASDP 文書の策定能力が不十分であった場合には、我が国（調査団）は直接的にこれら文書の策定もありうることを念頭に置いていた。しかし、これまでの ASDS/ASDP 策定支援の経験から、こうした直接的支援はセクタープログラムの本来のあり方に大きく矛盾していたことが徐々に明らかになってきており、フェーズ2、フェーズ3（その1）を通じてこの点は明確となった。

この方向性は ASDP 見直し作業以後の ASDP 策定支援ではもちろんのこと、DADP 策定支援においても変わらないと考える。むしろ、より一層の留意が必要と考えられ、従ってフェーズ3（その2）においても、タンザニア政府のオーナーシップの確保とドナーとの協調関係維持方針を重視するとともに、この方針に反する可能性を有する作業等は実施しない方針であることを付言したい。

5-2 作業項目

フェーズ3（その2）における調査団の主な作業項目は次の3点になるであろう。

- ASDP フェーズ2 立ち上げ支援
- DADP 策定支援
- ASDP における我が国協力案件の方向性の検討

ASDP フェーズ2 立ち上げ支援

2002 年 11 月の「ASDP Framework Document」の完成とともに ASDP の見直し作業のフェーズ1³⁸が終了した。2003 年 1 月以降は、Document に記載されている優先実施項目毎の計画策定準備作業が本格化する。調査団は関係する各種会合への参加、会合議事概要案の作成、我が国としてのコメント・提言案の作成等を通じ、2003 年度版 ASDP 実施開始に向けた支援を行う。参加すべき会合としては、ASDP に関する全体会合、優先実施項目事の計画策定準備作業部会、DADP 策定に関するものがあると予想される。なお、地方道路開発の制度面で課題整理、及びモニタリングと評価に関わる面での支援への注力特に想定している。

³⁸フェーズ1： 1) サブ・プログラムとそのコンポーネント、2) 優先順位、3) コスト見積もり、4) ICC や FASWOG 等の ASDP 実施支援体制、5) 農業セクター支援データベースの開発について関係者間で合意に達し、これらを勘案して「ASDP Framework Document」の修正を行う。

フェーズ2： サブ・プログラムとそのコンポーネント毎に参画ドナーを特定し、具体的な実施を検討する。

DADP 策定支援

ASDP 優先実施項目には DADP 策定に関わるものも含まれている。既に前回調査にて DADP ガイドライン策定支援を行っており、次は、その適用による実際の DADP 策定が ASDP 実施におけるポイントとなる。DADP 策定準備または前次現地調査で支援した DADP ガイドラインの試験的使用を伴う DADP 策定実施に資するべく、調査団は各種会合への参加及び県政府との協議等を通じた支援を行う。

ASDP における我が国協力案件の方向性の検討

前次現地調査にて作成、報告が完了した農業背景調査を基に、我が国協力案件の大きな方向性の検討を行った。ASDP フェーズ 2 の内容が具体化されるにつれて、同調査での提言内容をさらに掘り下げる作業等が必要になる可能性がある。したがって、ASDP フェーズ 2 立ち上げ支援および DADP の策定支援の進捗状況を踏まえ、適宜 ASDP における協力案件の方向性の検討を継続的に実施する。

資料編

目次

6月

資料 1.	ASDP レビュー・チームに対する TOR	1
資料 2.	FAO Investment Center による到着時配付資料	4
資料 3.	FAO Investment Center による中間報告会での配付資料	6
資料 4.	FAO Investment Center による最終報告会での配付資料	7
資料 5.	ASDP 修正作業に関する TOR (7 月 3 日配付)	23
資料 6.	ASDP 修正作業に関する予算案 (7 月 1 日配付)	26
資料 7.	DADP ガイドライン作成作業に関する TOR (7 月 4 日配付)	32
資料 8.	調査団作成の DADP 目次案 (簡便版)	36
資料 9.	調査団作成の DADP 目次案 (詳細版・日本の 9 県の比較表)	37
資料 10.	調査団作成のモニタリング指標案	38

7月

資料 1 1.	ASDP 見直し作業の TOR 案及び予算案と根拠	40
資料 1 2.	世銀案件 SOFRAIP 資料	46
資料 1 3.	ASDP 見直し作業の予算案改訂版	54
資料 1 4.	JICA による DADP ガイドライン策定コンサルタント選定プロセス 紹介資料	55
資料 1 5.	DADP ガイドライン策定 TOR への各ドナーコメント例	57
資料 1 6.	ショートリストに含まれたコンサルタントへの Invitation letter の 文面および DADP ガイドライン策定の TOR 最終版	60
資料 1 7.	FAO Investment Center による経過報告会資料 (7 月 22 日)	70
資料 1 8.	FAO Investment Center による最終報告会資料 (7 月 29 日) (Draft Aide-Memoire 29 July 2002 – DRAFT for Discussion)	80
資料 1 9.	DALDO 面談記録	94
資料 2 0.	Ireland Aid プロジェクト広告例	101
資料 2 1.	調査団が訪問した我が国案件関係資料	102
資料 2 2.	農業背景調査報告書イントロダクション (要約)	105
資料 2 3.	農業背景調査結果発表会の議事録案	114

8—9月

資料 2 4.	DADP ガイドライン作成コンサルタント提出プロポーザル 合同評価結表	117
資料 2 5.	ASDP 実施体制構成図	118
資料 2 6.	Village Executive 及び Ward Executive 行政能力強化プログラムの R/D	119
資料 2 7.	Village Executive 及び Ward Executive 行政能力強化プログラム マニュアル: 英訳版、一部のみ掲載 (調査団作成)	123
資料 2 8.	Morogoro Rural 県開発計画 農業関連部分の英訳	130
資料 2 9.	ASDP 実施体制に関わるドナーの意見書	137
資料 3 0.	DADP 策定ガイドライン「ゼロドラフト」報告用パワーポイント資料	138
資料 3 1.	ASDP 実施体制に関わる MAFS 回答の文面	144
資料 3 2.	ASDP 実施体制に関わる 8 月 29 日付け ドナーの意見書に対する MoF の回答	147

資料 3 3.	JICA 及び Ireland Aid による会合調整の E-Mail	150
資料 3 4.	世銀単独の対 MAFS 意見書	151
資料 3 5.	ASDP Framework Document (Draft) : 要約部分のみ	154
資料 3 6.	ASDP Framework Document (Draft) に対する調査団コメント	158
資料 3 7.	ワークショップとトレーニングセッションの予定活動	162
資料 3 8.	開会挨拶文面	166
資料 3 9.	18 日と 19 日のワークショップリポート・コンサルタント作成	168
資料 4 0.	18 日と 19 日のワークショップ日本語概要録・調査団作成	181
資料 4 1.	18 日と 19 日のワークショップ英語概要録・調査団作成	184
資料 4 2.	24～27 日 DADP トレーニング関連資料	193
資料 4 3.	MHP ヒアリング概要	197
資料 4 4.	MHP 活動内容説明資料	199

10 月

資料 4 5.	ASDP Taskforce 会合の議事録 (10 月 4 日) (英文)	207
資料 4 6.	ASDP Taskforce 会合の議事録 (10 月 24 日) (英文)	211
資料 4 7.	ASDP SECRETARIAT BUDGET ESTIMATE (2003/2007)	216
資料 4 8.	MTEF ALLOCATION TO ASDP QUICK WINS	217
資料 4 9.	TOR for PER FY 2002/2003	220
資料 5 0.	Operationalization of the Selective Accelerated Salary Enhancement Scheme	225
資料 5 1.	ASDP Secretariat 構成案 (5 つのオプション)	244
資料 5 2.	ASDP Framework Document (Revised) への統合コメント	248
資料 5 3.	DADP 策定ガイドライン第 2 版への統合コメント	251
資料 5 4.	DADP 策定ガイドライン第 3 版 (コンサルタント作成)	257
資料 5 5.	DADP 策定ガイドライン「第 3 版 (2)」(調査団による加筆・修正版)	294
資料 5 6.	農業流通実態調査の報告書 (コースト州ムクランガ県のカシューナッツを ケーススタディとして)	379

11 月

資料 5 7.	IFAD による AMSDP 説明資料 (11 月 4 日会合用)	405
資料 5 8.	DADP ガイドライン第 3 ドラフトに対する Ireland Aid のコメント	407
資料 5 9.	DADP ガイドライン第 3 ドラフトに対するデンマークのコメント	408
資料 6 0.	DADP ガイドライン第 3 ドラフトに対するドナー統合コメント	410
資料 6 1.	IFAD による AMSDP 説明資料 (11 月 25 日会合用)	412
資料 6 2.	ASDP Donor Round Table Meeting 案内及び優先実施事項一覧表	416
資料 6 3.	ASDP Donor Round Table Meeting (11 月 21 日) 概要録及び配布資料等	426

12 月

資料 6 4.	ASDP Framework Document 和文要約	431
資料 6 5.	ASDP Secretariat 予算案 (12 月 10 日タスクフォースにて議論)	435
資料 6 6.	ASDP 優先実施事項別 Taskforce 案	438
資料 6 7.	農村道路整備指針策定調査 : 作業指示書の骨子案 - 地方分権化、民間重視へ対応	441
資料 6 8.	Rural Road Improvement Strategy (RRIS): Focus on Local and Private Initiatives - A Tentative Study Proposal	444

DRAFT TERMS OF REFERENCE

AGRICULTURAL SECTOR DEVELOPMENT PROGRAM REVIEW

Background

The Government's Poverty Reduction Strategy (PRS) sets clear targets for poverty reduction in Tanzania, which include targets for overall and rural income poverty and food poverty. The achievement of these targets will necessitate an increase in economic growth, particularly for agriculture given its sectoral dominance. Indeed, the PRS identifies agriculture as a priority sector and the growth target is to increase annual growth of the sector from 3.6 percent to 5 per cent by year 2003 and to 6 per cent by year 2005.

To achieve this objective, an agricultural sector development strategy (ASDS) has recently been developed. The objective of the ASDS is to create an enabling and conducive environment for improving the productivity and profitability of the agriculture sector as a basis for improved farm incomes and rural poverty reduction in the long-term.

The strategy calls for:

- Greater focus on improving agricultural profitability as the cornerstone of Government action. This includes removing barriers constraining incentives for production, trade and investment, and ensuring public services are more effective at raising productivity growth.
- Developing public-private partnerships to ensure public resources are used more efficiently, and crowd in private sector service providers where possible.
- Decentralized implementation through district agricultural development plans.

The strategy has five priority areas:

- (i) strengthening the institutional framework;
- (ii) creation of an enabling environment for private sector development;
- (iii) public and private roles in improving support services;
- (iv) strengthening marketing efficiency for inputs and outputs; and
- (v) mainstreaming planning for agricultural development in other sectors.

To operationalize the strategy, a draft Agricultural Sector Development Program (ASDP) has been developed by the Government, providing a detailed costing of the ASDS.

In discussions of the ASDP and the PER for agricultural sector several issues were raised and require attention. These include concerns over the (in)consistency of the ASDP sub-programs with the ASDS objectives, and hence the likely impact of the sub-programs currently costed; prioritization and resource allocation among sub-programs; the clarity of the role of the private and public sector, and central and local Government; the policy framework; and the

monitoring and evaluation system. In light of these concerns, a further review of the ASDP is necessary.

Objective of the review

The overall objective of the review is to address the issues raised above on the ASDP as an instrument for implementation of the ASDS and provide recommendations for further strengthening of the overall implementation plan.

General tasks

- Establish the linkage between the ASDS document, which is widely accepted as setting out the sector strategy and approaches, to the ASDP framework document;
- Revisit the proposed sub-programs to determine whether they reflect the priorities shown in the ASDP framework document;
- Review the costs of the sub-programs;
- Review the implementation modalities in a decentralized setting.

Specific Tasks

- *Review the role of the ASDP in implementation of the ASDS.* Based on the experience in other sectors within Tanzania and across countries, assess the role of the ASDP, as is currently developed, in implementation of the ASDS. The assessment should include discussion on the effectiveness, the practicalities and flexibility of the instrument.
- *Assess how closely the sub-programs of the ASDP are linked to the objectives of the ASDS.* This includes a review of the relative weights given to the core priority areas of the ASDS in ASDP sub-programs, how these relate to the objectives and principals of the ASDS, and propose options for improving the linkage.
- *Assess the realism of the current sequencing being proposed under the ASDP.* The ASDP proposes funding for all sub-programs in 2002/03, however, the design of many of the underlying programs have not been developed and finalized to a level where accurate costs can be determined. The ASDS proposed new approaches to government programs which should be adequately built in to the design of these future programs. Following on from tasks one, determine which of these sub-programs requires further design, and how should these design activities be sequenced. Propose a process to ensure getting from the current status to final design and implementation for the various core priority areas. This includes recommendations for the process of consultations and broad participation of stakeholders in program design.
- *Determine how existing programs, including those (investment programs) funded by donors, are reflected in the ASDP, including ongoing programs and those planned for in the next three years.* The ASDP focuses mainly on 'other charges', however, this is only one elements of the spending plan. There is no reference to investment expenditures which is currently predominantly financed by donors. This determination requires a clear articulation of current funding through on-going programs; counterpart funding requirements, and links to the MTEF ceilings.
- *Review the roles, responsibilities and linkages of the ASDP with relevant ministries.* The implementation of the ASDS involves several ministries. These include MAFS, MCM,

MWLD, PO-RALG, MOW, MLHSD, and MOF. The ASDP includes costing of ASDS activities across all sectors, which should result in these activities being funded under the MTEF ceilings of these other ministries. Assess the effectiveness of this approach and the level of involvement of the other ministries, particularly PO-RALG, in developing these ASDP spending plans.

Outputs

- A draft review report addressing each of the tasks above
- Clear recommendations on how to strengthen the overall implementation plan reflected in the ASDP, preparing a detailed plan for improving the ASDP.

Liaison and reporting

The work will be co-ordinated under the FAO collaborative program arrangements. The team will work closely with the Government Task Force that prepared the ASDP and report to FASWOG.

Contract arrangements

The review will be undertaken in two phases:

- i) Diagnostic phase for 2 weeks
- ii) Recommendations on strengthening of the implementation plan (actual time required to be determined after the diagnostic work).

Consultant qualifications

The consultants will be required to possess the following:

- Expertise in strategic planning and implementation of agricultural sector programs.
- Knowledge of the Tanzanian agricultural sector would be requirement.

The team should comprise at least an economist and agriculturalist.

Key documents

1. The Poverty Reduction Strategy
2. The Agricultural Sector Development Strategy
3. The Agricultural Sector Development Program
4. The MTEF for Agriculture and Food Security, Lands, Rural Roads, Livestock, Marketing and Cooperatives and PO-RALG
5. The PERs for Agriculture and Food Security, Lands, Rural Roads, Livestock, Marketing and Cooperatives and PO-RALG
6. Review of Programmes and Projects (including "Study Streamlining On-going Agricultural Projects and Programmes in context of the ASDS")

ASDP DIAGNOSTIC MISSION: FIRST DAY NOTES

(DRAFT - 18 June 2002)

1. General:
 - relation between proposed activities and a 6-7% agricultural growth rate?
 - what are the most salient development success stories, why did they succeed? and can they be scaled up?
 - what is the meaning of an ASDP which does not take on board all on-going and future (already approved) activities?
 - is ASDP "implementable"? How can all these activities and sub-programmes be implemented in a coordinated manner?
2. ASDP Process and Management: JEC and TEC have rotating leadership:
 - need for a permanent team, headed by a full-time senior manager (director, PS), with adequate budget?
 - ASDP Secretariat mandate fully defined?
 - Who should ensure Donor coordination (TEC, PASWOG or both)?
3. Sub-programmes: should they be consolidated along the lines of major ASDS objectives?
 - Line ministry driven?
 - MTEP and PER driven?
 - LGAs relative contribution to ASDP compared to
 - Cross cutting, integration, farmers' driven?
4. Cross-cutting issues/activities: common understanding? What is, what is not?
 - Research, extension, agro-finance, marketing
 - Land use planning,
 - Rural infrastructure,
 - Gender,
 - HIV/AIDS
5. Does ASDP clearly distinguish:
 - National from decentralised, including National, Zonal, Regional, District, Ward, Village, communities...?
 - On-going and pipeline projects VS current existing?
 - Regular activities VS incremental?
6. Institutional Review of line Ministries, PO-RALGs and partner Ministries, what are their constraints and opportunities to implement ASDP?
 - Human Resource review
 - Need for recruitment or retrenchment?
 - What are the training and capacity building needs?
7. Private VS public and Decentralisation
 - Clear distinction? From Business, NGOs, CBOs, to government bodies
 - What is the justification for re-establishing RAS agricultural teams? Could the private sector/NGOs be contracted to provide such services instead?
 - Could ZRCs sell advisory services to LGAs?

A: ASDP day 1 meeting 6/18/02

8. ASDP funding:

- Would funds flow and reach the beneficiaries?
- Basket funding feasible? If not feasible [for the whole ASDP?], blend of basket funding, earmarked under direct donor funding?
- How to ensure simplicity of financial management (and procurement) at LGA level?
 - Limit number of donors per district?
 - Donor to finance area-based IRD/CDD projects VS national programmes that do not cover the whole country anyway?
 - Impose common financial management and procurement rules at LGA and below levels?

9. Prioritization and Phasing of ASDP activities:

- May depend on HR and Finance.
- Logical sequencing (e.g. capacity building before implementation, e.g. PLUM/land use before farm development).
- What has been taken into consideration in the current ASDP Draft?

10. Participation: enough provision for an effective participation of farming communities?

What needs to be done to successfully:

- Empower communities and people;
- Develop farmers' association, CBOs, networks etc.
- Bottom-up process from people, communities, village, ward, district, etc.
- Participation from planning through implementation and M&E:
 - for PLUM/land administration
 - for CDD-type of activities:
 - for production activities (crop, livestock, etc.)
 - for public goods, NRM, watershed etc.
 - for non-agricultural, but cross-cutting.

11. Land use, land administration, implementation of the land act/policy:

- Inserted in several sub-programmes?
- One separated sub-programme?
- Link between:
 - land administration,
 - NRM/watershed management, and
 - on-farm land husbandry (so-called soil conservation and soil fertility)

12. Link between NRM, agriculture and livestock

- How is it addressed in the draft ASDP?

Table 3.1: Draft Consolidation of ASDP Sub-Programs (Zero Draft)

Proposed Consolidated Sub-programmes	Proposed Main Components	1.0 Strengthening The Institutional Framework	2.0 Creating Favourable Environment for Commercial Activities	3.0 Public and Private Roles in Improving Support Services	4.0 Strengthening Marketing Efficiency for Input and Output	RELATED ON-GOING AND PIPELINE PROJECTS (Examples)
A. Policy, Legal, Regulatory and Institutional Framework	A.1 Policy & Legal Framework A.2 Land Use Implementation A.3 Public Sector Institutions A.4 Private Sector Development A.5 ASDP Management	1.1 Institutional Support	2.1 Commercial Sector Support 2.2 Cooperative Promotion	3.1 Crop Production 3.2 Agric. Information 3.12 Animal Health 3.14 Coop. Inspectorate		ASPS (Dairies) SOFER-HP (WB) Ag. Mark (IFAD) STADES (EU)
B. Research and Advisory Services and Training	B.1 Research B.2 Advisory B.3 Training			3.1 Agro-Mechanisation 3.2 Agro-processing 3.3 Agric. Extension 3.4 Crop Production 3.5 Agric. Research 3.6 Agric. Training 3.7 Soil Conserv. & Fertil. 3.8 Irrigation & water mgmt 3.10 Post-harvest Mgt 3.11 Range Management 3.12 Animal Health		YARP II (WB) Rural/Nether NAEP II (WB) EZCORE (IFAD) SOFER-HP (WB) KTC (ICAD)
C. Agricultural Productivity and Production Enhancement (Livestock Development)	C.1 Composite Employment C.2 Milk Production C.3 Animal Husbandry C.4 Livestock Health C.5 Veterinary Services C.6 Veterinary Training					LAMP (SIDA) SOFER-HP (WB) River Basin (WB) FIDP (IFAD) ASPS (Dairies) SPFS (FAO/AGB) Moro. Kang (IFAD) Madibira (ADH) DDS (Irish) KCDP (Belgium) TLM (AFB) RFSP (IFAD) Ag. Mark (IFAD) Mevata (French)
D. Input/Output Marketing and Processing	D.1 Input/Output Marketing D.2 Agricultural Marketing (e.g. Milk, Meat, etc.)			3.1 Agro-Mechanisation 3.2 Agro-processing 3.3 Agric. Extension 3.4 Crop Production 3.7 Soil Conserv. & Fertil. 3.8 Irrigation & water mgmt 3.10 Post-harvest Mgt 3.11 Range Management 3.12 Animal Health	4.1 Agric. inputs 4.2 Agric. Mark. Infrastructure 4.3 Contract Farming Output market???	
E. Input/Output Processing	E.1 Input/Output Processing E.2 Agricultural Marketing (e.g. Milk, Meat, etc.)				5.1 Rural Infrastructure	

(Note: for May 2002 proposal and project examples, italic = partial)

TANZANIA
Agricultural Sector Development Programme Review
Diagnostic Mission: Aide Memoire

(Final Draft - 28 June 2002)

Introduction

1. A mission¹ from the FAO Investment Centre (IC) visited Tanzania from 18 to 27 June 2002, to initiate the review of the draft proposal for the Agricultural Sector Development Programme (ASDP). The mission constituted the first step (so-called diagnostic or inception phase) of the review process, which is expected to lead to detailed recommendations on how to improve the ASDP proposal and strengthen its overall implementation plan. Terms of Reference (TORs) for the task, prepared by the Joint Government/donors' Food and Agriculture Sector Working Group (FASWOG), are presented in Annex 1. The mission worked closely with the ASDP formulation Government Team², under the guidance of FASWOG, chaired by the Permanent Secretary of the Ministry of Agriculture and Food Security (MAFS). Mr W. Ngrwa. The mission also met the Deputy Permanent Secretary of the Ministry of Finance, Mr Lyimo, and the leader of the Agriculture Sector Development Strategy formulation team, Prof A. Mates of Sokoine University of Agriculture (SUA). Discussions were held with staff from the Ministry of Finance (MOF), the Ministry of Water and Livestock Development (MWLD), the Ministry of Cooperative and Marketing (MCM), the Prime Ministers' Office (PMO), the President's Office - Regional Administration and Local Government (PO-RALG), the National Land Use Planning Commission (NLUPC) of the Ministry of Lands, and the Ministry of Health. The mission also held discussions with donors, namely DANIDA, European Union, Irish Aid, UK-DFID, World Bank, JICA, and FAO.

2. This draft Aide Memoire presents a summary of the mission's findings and recommendations, which were discussed and agreed upon at a wrap-up meeting organized by the FASWOG on 25 June 2002, and chaired by the Permanent Secretary of MAFS, Mr Wilfred Ngrwa. The mission is most grateful for the hospitality and cooperation it received.

Background to ASDP and Origin of the Review

3. Government's Poverty Reduction Strategy (PRS) sets clear targets for poverty reduction in Tanzania, which include targets for overall and rural income poverty and food poverty. The achievement of these targets will necessitate an increase in economic growth, particularly for agriculture given its sectoral dominance. The PRS identifies agriculture as a priority sector and the growth target is to increase annual growth of the sector from 3.6 percent to at least 5 per cent by year 2003 and to 6 per cent by year 2005. To achieve this objective, an Agricultural Sector Development Strategy (ASDS) was developed through a consultative process, and endorsed by stakeholders in October 2001. The objective of the ASDS is to create an enabling and conducive environment for improving the productivity and profitability of the agriculture sector as a basis for improved farm incomes and rural poverty reduction in the long-term. The strategy calls for:

¹ Composed of Messrs. Guly Evers, Agriculture/Mission Leader, and Justin Rushemeza, Economist from TCIR, mission funded by the FAO-World Bank Cooperative Programme.

² Prior to visiting Tanzania, the mission was briefed in Rome (during the World Food Summit - five years later) by Ms Janet Bissegato, GT leader and Director of Planning, MAFS.

(i) greater focus on improving agricultural profitability as the cornerstone of government action, including the removal of barriers constraining incentives for production, trade and investment; and ensuring that public services are more effective at supporting productivity growth; (ii) developing public-private partnerships to ensure public resources are used more efficiently, and crowd in private sector service providers where possible; and (iii) Decentralized implementation through District Agricultural Development Plans (DADPs). The strategy has five priority areas of intervention:

- (i) strengthening the institutional framework;
- (ii) creation of an enabling environment for private sector development;
- (iii) public and private roles in improving support services;
- (iv) strengthening marketing efficiency for inputs and outputs; and
- (v) mainstreaming planning for agricultural development in other sectors.

4. The Government is in the process of developing the ASDP to operationalize the strategy. In December 2001, a Government Team, supported by limited technical assistance, was appointed. The mandate of the 12-person team¹ was "to formulate ASDP which will establish a clear set of priorities for the Government in terms of areas of support and investment". The expected output was "a clear and concise ASDP document which includes a prioritized three year rolling plan and a detailed costed plan for the first year of implementation, and indicative budgets for years two and three". The document was to "outline areas which are readily implementable, using support from existing programmes, as well as areas where further studies are required to determine levels of investments and implementation modalities". In May 2002, a draft ASDP proposal was submitted to FASWOG for review and comprised a Framework Document, a Sub-Programme Document, and 22 Annexes describing and costing the proposed sub-programmes (Interim Report, January 2002).

Role of the ASDP in implementation of the ASDS.

The ASDP will provide the operational framework for implementing the ASDS. It is expected to mobilize incremental resources for the sector, in a coordinated manner. On-going and pipeline operations are to be gradually streamlined to be consistent with the ASDS, and the ASDP planning and implementation framework. The ASDP proposes to introduce new funding mechanisms, including basket funding. The launching of ASDP should be gradual and flexible, and not all sub-programmes and components are expected to be fully developed from the onset. Lessons should be drawn from on-going, sector-wide health and education development programmes in Tanzania, e.g. for the participatory planning and funding mechanisms. However, because of the greater complexity of the agricultural sector, those are not blue prints, readily applicable to ASDP.

The experience with agriculture sector-wide development programmes in the Region also suggests that, while the concept may be attractive, its implementation is difficult and can fail, especially if activity prioritization and the pace of implementation are not tailored to stakeholders' capacity, particularly at decentralized levels. Good leadership, an effective stakeholder partnership and coordination mechanisms are also needed within the sector and with cross-cutting sectors.

5. During the discussions of the draft ASDP and the Public Expenditure Review (PER) for financial year (FY) 02/03 for the agricultural sector, several issues were raised. These included concerns over the (in)consistency of the draft ASDP with the ASDS objectives, and hence the likely impact of the proposed sub-programmes; prioritisation and resource allocation among the sub-programmes; the clarity of the role of the private and public sector, and central and local

¹ The 12-person team comprises two or three members from the MAFS, MWLD, MCM and PO-RALG.

Government, the policy framework, and the monitoring and evaluation system. In light of these concerns, FASWOC recommended that an assessment of the draft ASDP be undertaken with the facilitation of the FAO Investment Centre. The overall objectives of the review are to:

- establish the linkage between the ASDS, which is widely accepted as setting out the sector strategy and approaches, to the ASDP framework document;
- revisit the proposed sub-programmes to determine whether they reflect the priorities shown in the ASDP framework document;
- review the costs of the sub-programmes; and
- review the implementation modalities in a decentralized setting.

Preliminary Findings and Recommendations

6. This section outlines preliminary findings and recommendations, arising from the consultation of the various documents, and the one-week discussions between the mission and institutional stakeholders. Hence, these do not constitute a comprehensive review of the draft ASDP, particularly at sub-programme level.

General

7. The mission commends the work achieved by the Government Team (GT), reflecting a strong commitment to fulfil its TORs, which were very ambitious. However, the GT has somehow diverted from the output originally agreed upon, in particular by attempting to prepare a fully costed, five-year ASDP (para 4). Consequently, costing of the five year ASDP has been attempted with the same level of details as required for submitting an annual budget under the Medium-Term Expenditure Framework (MTEF). This approach proved to be an "impossible task" to achieve over three to four months, hence the outcome in terms of ASDP costing does not provide an estimate of the overall sector funding requirements to meet the ASDS objectives. Although a number of issues are discussed below and substantial re-structuring of the ASDP will be proposed, much useful information has already been collected and the current Framework Document is expected to constitute the basis for a revised ASDP.

Link between ASDP sub-programmes and the objectives of the ASDS

8. *Draft ASDP sub-programmes:* The draft ASDP proposes to implement the ASDS through five strategic areas and 22 sub-programmes (Table 1). These sub-programmes are largely based on the list of interventions presented in the ASDS logical framework. However, the ASDP was formulated by estimating needs from the national level down to decentralized levels (rather than through a bottom-up process), and by focusing directly on discrete interventions through a large number of centrally-managed sub-programmes that were intended to support district-based development. Some major features of the ASDS appear to have been diluted, in particular with respect to: (i) decentralization and the focus on Local Government Authorities (LGAs), through stakeholders-owned District Agricultural Development Plans (DADPs) and field-based agricultural development activities; (ii) the distinction between the roles of the public and the private sectors; and (iii) the mainstreaming of cross-sectoral issues such as rural infrastructure, gender, HIV/AIDS and the link between sustainable agricultural productivity enhancement and environmental management. Also, there has not been a systematic prioritization and logical sequencing of the proposed interventions (most interventions to start in year one), nor a strategy to prioritize geographic areas of intervention. Finally, the organization of the ASDP into 22 sub-programmes would constrain the integration of the various components contributing to

productivity enhancement at farm-household level, and it would also increase substantially the complexity of implementation, at national level and at the "interface" with the respective districts.

9. *Cost Estimates.* The total cost for implementing the ASDP over a period of five years has been estimated at US\$220 million* (Table 2), of which some 94% is to be allocated to the agricultural ministries (MAFS, MWLD and MCM), 5% to PO-RALG (for capacity building) and 1% to complement other sectors' budgets (cross-cutting). The share between national and decentralized activities is not presented. There is no clear distinction between recurrent and investment costs, and between current and incremental "other charges" (OCs) (as reflected in MITF development budgets); and the sources of finance and funding gaps for the identified interventions have not been estimated. Generally, cost estimates appear to include mainly OCs without or with incomplete estimates of investment/development costs (e.g. for irrigation). Therefore, costing does not quantify the required development and productive investments, particularly those to be implemented through DADPs. These should include, among others, much of the on-going and pipeline donor-funded projects and programmes (and counterpart funding requirements), which are not reflected in the current costing. Finally, some major ASDP-related operations that are handled by "non-lead ministries" are not referred to in the ASDP sub-programmes and cost estimates. This is particularly the case of the IFAD-funded rural finance and agricultural marketing projects which are currently implemented under the auspices of the PMO¹.

10. Overall, many of the sub-programmes and underlying activities have not been developed and finalized to a level where accurate costs can be determined. Therefore, the cost estimates of US\$220 million over five years do not provide an accurate estimate of the budget requirements for implementing the ASDS and achieving increased agricultural growth targets. The mission recommends that the ASDP sub-programmes be reorganized and consolidated in line with ASDS (see below). Once the consolidation and sub-programmes have been agreed upon, appropriate implementation approaches would be developed and detailed formulation undertaken on a sub-programme or broad component basis.

11. *Proposed Revised Sub-programmes.* The main thrust of the ASDP should be to support districts to prepare ADPs which would bring investments in agricultural production and increase productivity so as to reduce poverty and improve food security. Addressing policy, legal and institutional issues, together with markets and finance aspects are needed to create an enabling environment to support agriculture. A proposal is made to consolidate the 22 sub-programmes into 5 major sub-programmes which would be subdivided into components/sub-components. While respecting the thrust of the ASDS and addressing the major concerns of the draft ASDP (para 8), the consolidation has also been driven by the need to: (i) identify and bring together LGA/Community levels' activities; (ii) ensure integration of activities at farm level; and (iii) simplify implementation arrangements, especially at the District level. A functional analysis would be required to assign implementation roles, responsibilities and budgets. The sub-programmes are proposed to be organized as follows:

- A. Agricultural Development (through DADP/DDP implementation);
- B. Policy, Legal, Regulatory and Institutional Framework;
- C. Research, Extension/Advisory Services and Training;
- D. Input/Output Marketing and Rural Financing; and
- E. Cross-cutting issues with other sectors.

¹Excluding personnel emoluments (PE).

²Apparent with the exception of research (CARP II) and extension (NAEP II) for the coming FY.

Government and donor-funded operations are far from covering all the districts, villages and communities; however, they can serve as a basis for estimating district-based gaps and country-wide budget requirements. Such information can be used for prioritising activities and geographic areas of intervention (see para 11).

12. Most of the 22 sub-programmes of the draft ASDP would become activities, proposed to be re-grouped under the appropriate consolidated sub-programmes and components. Possible sub-programmes, components and activities are presented in Table 1, together with the corresponding sub-programme proposals made in the Third Draft ASDP.

Link Between Existing Programmes and Projects and the Draft ASDP

13. In the third draft ASDP, cost estimates focus mainly on OCs, which are only one element of the anticipated expenditures. A "Study on Streamlining of On-going Agricultural Projects and Programmes in the Context of the ASDP" was undertaken in 2001. The study includes a general review of sector's support projects (48), an in-depth analysis of 18 of them, and draws recommendations for their streamlining within ASDP. The geographic distribution of donor-funded projects and programmes is presented on a Regional basis. The study was not used for preparing the ASDP draft documentation. Therefore, on-going and pipeline projects and programmes have not been considered while identifying priority interventions and investments, which are predominantly financed by donors have not been incorporated. The mission recommends that: (i) indicative investment and operating costs of proposed ASDP interventions be estimated by sub-programmes and major components; (ii) secured funding through on-going and pipeline projects/programmes be allocated to the respective Sub-programmes/activities; and (iii) major funding gaps be identified.

14. Although the regional mapping of activities provides useful information and shows, among others, significant regional imbalances, it does not consider the district level, which constitutes the key operational layer for implementing the ASDP. The Study team was reportedly constrained by the absence of reliable and systematic information on donor-supported projects and programmes. During the proposed ASDP re-formulation process (see para ...), efforts should be made to obtain accurate and updated information on donor-supported ASDP-related activities on a district basis (including for NGOs). Such information would allow, among others, to ensure that priority interventions are better distributed among districts, whether through donor and/or government funding. The mission therefore recommends that a simple data base that would include donor-funded projects, disaggregated by district, should be developed.

ASDP and the PER/MTEF Processes

15. In the PER for FY02/03, it was agreed that "ASDP implementation in FY02/03 will have to take place within the budget allocation already identified in the current MTEF, by implementing the priority ASDP activities that have already been identified in the land Ministries budget allocations". Given that the draft ASDP only became available in May 2002, its elements could not be fully embedded in the MTEF 02/03-04/06, and allocations for recurrent expenditures and the development budget generally followed the normal budgeting procedures. Limited incremental funds were allocated to "quick wins" which were recommended in the ASDP draft Sub-programme document (add value and % of agric. sector budget). Taking MAFS as example, recurrent expenditures amounting to TSh 10.4 billion were earmarked for various sub-votes (departments). The development budget amounting to TSh 51.4 billion (some TSh 1.6 billion local funds and 29.8 billion from foreign sources) was earmarked for the implementation

URT/ASDP line ministries: November 2001.

The report mentions that "the only proper documentation that could be traced was a 1998 Compendium of Donor Assistance Projects in Food and Agriculture prepared in 1998 by FAO (see page 17)".

Public Expenditure Review for FY02, Agriculture Sector, National Consultative Meeting, May 2002.

of 12 projects in three different programmes: two projects under Institutional Administration, eight under Crop Development and two under Research Development. Links between the proposed 22 sub-programmes in the current ASDP version and the MTEF 02/03 - 04/05 have hardly been made. *(for final JIM version: figures to be updated with inputs from DPP/MAFS)*

16. To meet the budget preparation deadlines for the next fiscal exercise (Table 5), the next PER and MTEF preparation should start around October 2002. The Government wishes to incorporate elements of the revised ASDP in the next PER/MTEF. While a revised ASDP draft document is expected by the end of September, it would only contain gross estimates of financial resources needed for the next three to five years (para 32). Therefore, it will not be possible to derive detailed costs for the MTEF 03/04-05/06 from the September draft ASDP. Detailed figures could however be obtained for some sub-programmes, e.g., from ongoing or pipeline projects which could easily be streamlined into the ASDP, or whose figures could be used for new districts for which funding has not yet been secured. The mission recommends therefore that, during the coming months, the ASDP formulation process be distinguished from the next MTEF/budgeting process (paras 32 to 36). Indeed close links between the two exercises should be maintained, but their specificity should be recognized and appropriate resources allocated accordingly.

ASDP Management

17. Several institutions will be involved in the ASDP process and management at one level or another¹⁶. Because of the number and diversity of stakeholders that must be involved in the ASDP process, there is need for an effective coordination mechanism. At the national level, it is envisaged that ASDP will be overseen by an Inter-ministerial Coordination Committee (ICC) and PASWOC, which is a Consultative Forum composed of representatives of the lead ministries and development partners. A Technical Inter-ministerial Coordination Committee (TCC) is proposed to act as the "secretariat" of ICC, which would be composed of the Directors of Policy and Planning of the four Lead Ministries. Both the ICC and TCC would be chaired on a six-month rotational basis, respectively by the PS and Director of Policy and Planning of one of the four ASDP Lead Ministries.

18. While ICC and TCC would oversee the coordination of ASDP activities at the national level, all their members already have full time assignments, hence they could only provide overall policy and implementation guidance, however they could not perform day-to-day ASDP managerial activities. It is therefore recommended to have a "high profile" unit/secretariat that would implement day-to-day activities and monitor ASDP progress. Such a small body would need to be headed by a senior professional with recognized leadership. In addition to overseeing ASDP implementation, this body would also facilitate the continuing process of updating sub-programmes/components and mobilizing further support. The proposed body could function as the "ASDP Secretariat" (hence the secretariat of the ICC) under the direct supervision of the TCC. The detailed mandate, institutional anchorage and modus operandi should be further discussed and agreed upon with stakeholders. The mission recommends that the TCC drafts preliminary TORs for the ASDP "Secretariat", identifies the required expertise (team composition), and proposes establishment and operational modalities, for discussion and fine-tuning during the follow-up FAO/IC mission (see Table 4).

¹⁶ Such as lead ministries (MAFS, MWLD, MCMI and PO-RALG), other ministries, Regional Secretariats, LGAs, academic and research institutions, parastatal organizations, commodity boards, farmers' organizations, agribusiness and financial institutions, NGOs etc. (see list in Framework Document, section 1.2.1.4, pp 39-41).

Proposed ASDP Funding Mechanisms

19. **Flow of Funds.** The flow and budgeting of funds proposed for ASDP financing is depicted in Figure 5.2 of the draft Framework Document. The draft Framework Document recognizes four main sources:

- treasury funds, including government budget (recurrent and development) and budget support funds from various sources;
- basket funds, contributed by various development partners (general and earmarked);
- non basket funds, from bi-lateral and multi-lateral donors/financial institutions; and
- local community funds.

20. While it is too early for the time being to have an exact idea as to which donors will participate or not in the basket funding, it is envisaged that Basket funding would consist of two windows: (i) the "general" basket into which donors would deposit funds without specific allocation to given sub-programmes, projects or activities; and (ii) the "earmarked" basket, whereby donors and GoT would allocate funds to specified sub-programmes or activities¹¹. It is recommended that the description and Figure 5.2 make the distinction between "basket" and "non-basket" funding as the two possible sources of donor financing. It should also clearly depict the "local community funds" as a source of funds.

21. Funds from donors (basket and non-basket) and funds from GoT would constitute the "ASDP Fund" which would be used to finance ASDP activities through the four lead ministries (MAFS, MCM, MWLD and PO-RALG), and also to fund activities in support of other ministries such as land administration and rural roads. A clear distinction should be established between the three agricultural ministries (MAFS, MCM and MWLD) and PO-RALG in order to show the relative importance of the flow of funds to the districts through PO-RALG. It also appears that other ministries may need to be included in the budgeting and funding framework. For example, two ASDP-related projects funded by IFAD are currently administered through the EMO (para 9).

22. **Proposed Administration of ASDP funds.** Chapter 5 of the draft ASDP Framework Document describes quite adequately the financing and accounting mechanisms and responsibilities of various institutions to ensure that activities are effectively financed at national and district level. A summary of the administrative structure is provided in Figure 5.1. The ICC would bear overall responsibility for a smooth and effective use of ASDP funds. Given that not all funding would be channelled through the Basket facility, the proposed "Basket Financing Committee" would need to be replaced by an "ASDP Financing Committee" that would oversee the flow and use of funds available for ASDP (including basket and non-basket funds). Individual development partners who provide non basket funds for ASDP purposes would agree with GoT on the disbursement mechanisms to be followed. The mission recommends that these changes be reflected in the revised Framework document, along with any other changes deemed necessary during the forthcoming review and finalization of the document. For example, the role of the proposed ASDP Secretariat to support the financing committee should be defined, and the composition and TORs of the Audit Sub-committee to be formed by the ASDP Financing

¹¹ Other sources to be considered include commodity levies and district budgets, as well as NGO contributions which generally are not channelled through Government channels.

¹² There remains some confusion regarding the concept of "Basket Funding", especially when funding of one given ASDP operation by one single source is labeled as "earmarked basket". Such scenario should rather be referred to as "non-basket funding". It is anticipated that on-going and pipeline projects and programmes would be gradually streamlined within the ASDP framework, keeping a flexible approach regarding the funding options.

Committee clarified (para 3.2.3). While the financing and accounting mechanisms appear generally well articulated, it may be useful if they are reviewed by a Public Finance Expert before the finalization of the ASDP Framework and Sub-programme document(s).

District Agricultural Development Plans (DADPs)

23. The process of transferring political, financial and development planning authority from the central ministries to the districts, features very high in ASDS. Local people must be empowered to ensure their participation in the decision making process, which would result in increased ownership of locally developed ASDP-related initiatives. Therefore LGAs and local communities are expected to gradually assume responsibility for formulating their own District Agriculture Development Plans (DADPs) and related budgets for eventual integration into the District Development Plans (DDPs). The limited capacity of LGAs for facilitating this process has been recognized by ASDS and will need to be addressed as a matter of priority under ASDP.

24. According to the Planning and Indicative Timetable for LGAs¹³, the preparation of DADPs must start in July to be completed in December, so as to allow the financing of district plans and activities in the new fiscal year (which starts in January). If started in early July, the process of preparing comprehensive DADP guidelines would not be finalized until September in the best case¹⁴, and the DADP formulation process itself would only be launched from September/October, which is too late for the preparation of the 2003 District budgets.

25. Given this time constraint, it would be advisable to look for alternative solutions, instead of rushing into an activity that cannot be done efficiently. PO-RALG has developed Guidelines for "District Participatory Planning and Budgeting" (DPPB), combining guidelines for several sectors. However, the agricultural sector does not feature high in the DPPB. Several development partners (e.g. Irish, Finnish and Dutch Aid, and DANIDA) have also developed guidelines for participatory district planning in their respective areas of intervention. It is therefore recommended that, as an interim measure, TCC compiles available guidelines and develops draft guidelines which would be used to prepare DADPs (i.e. to complement DPPB). For the next district FY (2003), the Ministry of Finance indicated that only three to four districts would need to prepare a DADP under the ASDP framework (for funding under the MTEF 02/03-04/03 ceiling). Districts which have already gained experience in participatory planning would be selected. Building on the experience gained during the first year, DADP guidelines would be improved, and gradually used in other districts, where LGAs' capacity allows.

26. JICA has indicated that they could provide technical backstopping and financial support for: (i) preparing the draft guidelines to be finalized by end-August 2002 (for the planning and budgeting process in the selected districts from September to December 2002; and (ii) for revising and finalizing the guidelines for the following years (to be prepared by mid-2003).

ASDP and the Land Acts' Implementation

27. The link between agricultural development and the implementation of the National and Village Land Acts has been recognized in the ASDS. The third draft ASDP proposes in several sub-programmes activities for surveying and demarcating the various types of land. Closer consultation between ASDP (ICC/TCC) and the NLUPG is needed to review the linkages and

¹³ See Framework Document, Section 4.4, Annex 2.

¹⁴ For example, TORs end of June/early July; Recruitment by July 13; Draft Guidelines by August 31; Approval process and Finalisation by September 30.

possible synergies between the ASDS/ASDP and the implementation of the Land Acts. Discussions should focus on: (i) procedures for identifying land for medium and large commercial farming; and (ii) the scope for introducing elements of the Participatory village Land Use Management (PLUM) methodology during the DADP preparation process¹².

Institutional Review, Functional Analysis

28. The ASDS calls for strengthening the institutional capacity and framework of the actors involved in the agricultural sector. Although the ASDP stakeholder environment has significantly changed over the last 10 years (e.g. private sector, civil society, farmers' organizations etc.), it has been assumed that the current public institutional set-up (within the existing Lead Ministries) is generally adequate to successfully implement the ASDP¹³. A functional analysis of the sector's actors and an assessment of the current capacity of the public organizations should be undertaken (e.g. in terms of human resources, capacity and relative importance of the respective departments, sections and units). Given the time constraint, the mission recommends that institutional aspects be addressed during the detailed formulation of sub-programmes (in particular under sub-programmes B and C).

Stakeholder Participation and Consultation

29. The ASDS was formulated through a participatory and consultation process involving a wide range of stakeholders from the public and private sector, as well as from the civil society. So far, little stakeholder consultation has been undertaken during the ASDP formulation process. While stakeholder participation will be critical during the sub-programme formulation and ASDP implementation, some level of consultation will be required to validate the ASDP framework, possibly through a first "Annual Conference of Stakeholders" (ACS), or an *ad hoc* workshop.

30. However, there is concern that the currently proposed stakeholder representation is seriously biased towards public institutions, with marginal (ICC) or limited (ACS) representation of farmers, private sector and the civil society¹⁴. For example, it is estimated that the composition of the ACS, of about 120 members, would be distributed as follows (estimated from ASDP draft Framework Document, pp 39-41):

- public sector: 92 (72%);
- farmers: 10 (8%);
- agribusiness/financial institutions: 11 (8%);
- CSOs/NGOs: less than 2 (1.5%);
- Donors/FASWOG (excluding double counting): 10 (8%)

31. The participation of the various stakeholders is key to the successful implementation of the ASDP both at National and LGA levels. Careful review is needed to ensure adequate

¹² The Village Land Act provides the legal framework to allocate "Village Certificates of Land" to the villages and "Certificate of Customary Land" to individual farmers. The PLUM methodology was developed by the NLLPC with the assistance of the Dutch organization S&V. The PRSC is seeking to address the Land Acts implementation issues through the assistance in developing a "Strategic Land Act Implementation Plan".

¹³ With the exception of RAS, where deployment of additional staff is proposed.

¹⁴ In the ASDP, the definition of "private sector" is not always clear and several bodies are not consistently included in this category (e.g. NGOs). For example, the five private sector representatives to the ICC are nominated by the Tanzania Private Sector Foundation, assuming that this body represents all the private stakeholders, including smallholders, commercial farmers, agribusiness, NGOs etc.

stakeholders' representation, with individuals appointed primarily on the basis of their personal interest and commitment to contribute to ASDP implementation. At district level, an ASDP forum could be established by stakeholders.

Proposed Strategy for Formulating the ASDP

32. From July to September 2002, the ASDP Framework will be revised and the broad content of the agreed sub-programmes and components developed. Concurrently, relevant information developed under the ASDP Framework will be utilized for preparing LGA budget for FY 2003 and MTEF 03/04-05/06. The timeframe for these activities is presented in Tables 4 and 5. While the ASDP formulation and next year District/MTEF exercises need to be closely coordinated, they should not be fully merged; rather their specificity should be recognized and the tasks assigned to relevant teams, with external assistance as appropriate.

33. **ASDP Formulation.** As discussed above, the ASDP formulation is a process rather than a "one-off" exercise, and the on-going Review is not merely a matter of improving the third draft ASDP documents. The mission recommends to adopt a two-phase approach, namely (Table 4):

- **Phase 1 (July – September 2002):** revision of the ASDP Framework, reaching agreement on the Sub-programmes and Components, prioritization and preparing indicative cost estimates; ICC/FASWOG/stakeholder validation; development of a simple district data base; and
- **Phase 2 (October 2002 – end-2003):** identification of main partners for the respective Sub-programmes and Components, and detailed formulation.

34. The preparatory work for the establishment of the ASDP Secretariat would be completed by the end of Phase 1, with launching taking place in October.

35. The revision of the ASDP document will be overseen by ICC/TCC and involve close consultations with FASWOG and stakeholders, including a workshop around the third week of September. It is also envisaged that the upcoming PRS mission will contribute to the review of the revised ASDP document (September 2002). At the beginning of Phase 2, a donor roundtable could be organized to discuss and agree on modalities for streamlining on-going and pipeline projects/programmes, and to seek pledges for incremental support. Once agreement between GoT and potential donors has been reached for a given sub-programme and related components, detailed formulation would be launched.

36. **MTEF 03/04-05/06.** Information stemming from ASDP process will be utilized as an input into the district plans and budgets and the MTEF process. At district level, draft guidelines will be prepared and used to develop DADPs of up to four districts for the fiscal year 2003 (paras 23-26). Revised guidelines will be prepared for the preparation of the MTEF 03/04 – 05/06. At the national level, as indicative cost estimates become available for the respective sub-programmes during the ASDP update, detailed cost estimates will be prepared for selected sub-programmes and projects and used in the MTEF 03/04-05/06.

Follow-up

17. The ASDP formulation process will continue to be led by the Government Task Force, with the assistance of the FAO Investment Centre and locally recruited consultants. Based on the strategy proposed above and the time frame presented in Tables 4 and 5, the following steps are foreseen within the next two months:

A. Government Team:

The Government will adjust the size and composition of GT, which would comprise a multi-disciplinary team of up to 7 members, covering the following expertise: team leadership; decentralization and LGAs; policy and institutional aspects; research and extension services; marketing and rural finance; livestock and range management; and farming systems, crops and irrigation. The new GT will work in close collaboration with the concerned staff of the Lead Ministries and other stakeholders as required. The following actions have to be taken within the next two weeks:

- new GT team identified and composition endorsed by FASWOG;
- brief senior management of the lead ministries as appropriate;
- collect information on all on-going and pipeline projects and programmes, including data on costs (by components/sub-components and by year);
- identify sources of information for developing the ASDP district data base; and
- preparatory work for the ASDP Secretariat.

B. External Assistance:

- FAO-IC: will continue to provide external backstopping between July and September and, together with the TCC, oversee the work of locally recruited consultants; around mid-July, a two-three person mission will return to Tanzania for about two weeks to assist the GT in: (i) reaching consensus on ASDP Sub-programmes and components (including prioritization); (ii) revising draft documents and assisting in sub-programme indicative costing; (iii) developing the district data-base; and (iv) briefing locally recruited consultants;
- Locally Recruited Consultants: will complement the assistance to the government provided by FAO-IC from end-July through September, in particular to: (i) prepare the final draft ASDP Framework and Sub-programme document(s); (ii) estimating costs and preparing an indicative financing matrix; (iii) developing the district data-base; and (iv) reviewing ASDP implementation arrangements at the district level;
- FAO Technical Cooperation Programme (TCP): there may be scope for seeking assistance from FAO through its TCP for supporting the initial operations of the ASDP "Secretariat". Government should submit an official request for assistance. If agreeable to the Government and FAO, one member of the follow-up FAO-IC mission would specifically assist the TCC in further developing the ASDP Secretariat proposal and in formulating a TCP project in accordance with established guidelines and format.

Table 1: ASDP SUB-PROGRAMMES, AS PROPOSED IN THE THIRD DRAFT ASDP DOCUMENT

S/NO	Main Theme and Sub-programmes
1.0	STRENGTHENING THE INSTITUTIONAL FRAMEWORK
1.1	Institutional Support
2.0	CREATING A FAVOURABLE ENVIRONMENT FOR COMMERCIAL ACTIVITIES
2.1	Commercial Sector Support
2.2	Cooperative Promotion
3.0	PUBLIC AND PRIVATE ROLES IN IMPROVING SUPPORTING SERVICES
3.1	Agro - Mechanization
3.2	Agro - Processing
3.3	Agricultural Extension
3.4	Crop Protection
3.5	Agricultural Research
3.6	Agricultural Training
3.7	Soil Conservation and Soil Fertility
3.8	Irrigation and Water Management
3.9	Agricultural Information
3.10	Post-Harvest Management
3.11	Range Development and Management
3.12	Animal Health
3.13	Agriculture Financing
3.14	Cooperative Inspectorate
4.0	STRENGTHENING MARKETING EFFICIENCY FOR INPUT AND OUTPUT
4.1	Agricultural Inputs
4.2	Agricultural Marketing Infrastructure
4.3	Contract Farming
5.0	MAINSTREAMING PLANNING FOR AGRICULTURAL DEVELOPMENT IN OTHER SECTORS
5.1	Rural Infrastructure Identification
5.2	Other Crosscutting Issues

Source: Third Draft ASDP Sub-Programme Document (5 May 2002)

Table 2: SUMMARY OF SUB-PROGRAMME COSTS ('000 US\$) PROPOSED IN THE THIRD DRAFT ASDP DOCUMENT

No.	Sub-Programme	2002/03	2003/04	2004/05	2005/06	2006/07	Total
1	Institutions	9,292.3	7,428.3	5,423.0	3,777.4	1,731.7	28,652.7
2	Commercial Sector Support	3,353.8	4,428.3	3,271.3	2,313.5	1,211.0	14,598.9
3	Cooperative Promotion	188.3	371.7	349.1	226.3	206.1	1,341.5
4	Agro-Mechanization	548.0	105.5	373.0	113.5	142.9	1,072.9
5	Agro-Processing	272.0	151.9	455.8	310.5	105.2	1,295.4
6	Agricultural Extension	8,172.0	9,308.9	9,173.3	7,242.2	2,201.0	41,697.4
7	Crop Protection	1,537.1	1,363.6	1,260.3	1,055.1	5.9	5,222.0
8	Agricultural Research	7,724.0	6,586.4	6,199.2	4,301.0	2,400.2	31,210.8
9	Agricultural Training	3,681.6	4,294.7	4,585.1	2,603.7	2,483.1	19,648.2
10	Soil Conservation and Soil Fertility	580.3	789.8	423.3	211.9	214.3	2,009.6
11	Irrigation and Water Management	1,463.7	1,494.0	1,375.8	1,553.2	533.2	6,904.9
12	Articulation Information	4,169.2	1,649.0	1,159.1	875.1	1,086.9	9,949.3
13	Post-Harvest Management	230.5	114.8	112.3	87.3	87.3	622.2
14	Range Management Development and Management	3,176.3	4,505.5	3,332.0	1,300.6	1,929.2	14,243.6
15	Animal Health	7,806.3	6,593.0	6,508.3	5,036.4	3,370.6	30,314.6
16	Agricultural Financing	482.1	321.6	266.4	172.1	142.1	1,384.3
17	Cooperative Development	146.7	153.0	166.2	44.1	38.6	548.6
18	Agricultural Inputs	3,395.6	1,263.0	1,023.5	225.4	330.7	6,238.2
19	Extension Infrastructure	672.8	1,075.2	831.3	864.5	323.7	4,667.5
20	Contract Farming Service	361.9	533.2	699.3	324.4	192.3	2,110.1
21	Rural Infrastructure	284.3	0	0	0	0	284.3
22	Other Crosscutting Issues	791.3	310.5	352.1	210.0	107.2	1,771.1
TOTAL BUDGET- ASDP		57,518.5	52,873.3	47,953.6	34,951.6	17,215.2	208,512.2

Source: Third Draft ASDP Sub-Programme Document (5 May 2002)

Table 3: Proposed Revision of ASDP Sub-Programmes (Draft)

Correspondence with ASDS Strategic Interventions and Third Draft ASDP Proposal (May 2002)						
Proposed Revised Sub-programmes	Proposed Main Components	1.0 Strengthening the Institutional Framework	2.0 Creating Environments for Commercial Activities	3.0 Public and Private Roles in Improving Support Services	4.0 Strengthening Marketing Efficiency for Input and Output	RELATED ONGOING AND PIPELINE PROJECTS (Examples)
A. Agricultural Development (through DAPPDP Implementation)	A.1 Enabling Environment in terms of policy and regulations A.2 Capacity Building: Community Empowerment, Farmers organizations, service providers etc. A.3 DAPP's formulation process, FPPM Participatory Village Land Use Mgt A.4 Productive Investments: irrigated farming, irrigation and water management, livestock/range mgt A.5 NRDP/Watershed Management A.6 Business Development	1.1 Institutional Support	2.1 Commercial Sector Support 2.2 Cooperative Promotion	3.1 Agro-Mechanisation 3.2 Agro-processing 3.3 Agric. Extension 3.4 Crop Production 3.5 Agric. Research 3.6 Soil Conservation & Fertil. 3.7 Irrigation & water mgt 3.8 Pasture/range mgt 3.9 Range Management 3.10 Animal Health	4.1 Agric. Input (Output market) 4.2 Agro. Market 4.3 Commodity Marketing 4.4 Credit	LAMP (SHDA) SOWCAP (WB) River Basin (WB) HDP (HAP) ASPS (DAB/HS) SPS (DAB/HS) Mara, Long (HAP) Madiba (AFPH) BBS (fish)
B. Policy, Legal, Regulatory and Institutional Framework	B.1 Policy & Legal Framework B.2 Land Act Implementation B.3 Institutional Strengthening B.4 Commercial farming development	1.2 Institutional Support	2.1 Commercial Sector Support 2.2 Cooperative Promotion	3.1 Crop Production 3.2 Agric. Information 3.3 Animal Health 3.4 Crop Inspection 3.5 Agro-Mechanisation 3.6 Agro-processing 3.7 Agric. Extension 3.8 Crop Production 3.9 Agric. Research 3.10 Soil Conservation & Fertil. 3.11 Irrigation & water mgt 3.12 Range Management 3.13 Animal Health	4.1 Agric. Input (Output market) 4.2 Agro. Market 4.3 Commodity Marketing 4.4 Credit	ASPS (DAB/HS) Ag. Mark. (HAP) STAPEX (HAP) SOWCAP (WB) LARP (HAP) MORAF (HAP) EZA (HAP) SOPR (HAP) KTC (Local)
C. Research and Extension/Advisory Services, Training and Training	C.1 Research C.2 Extension/Advisory Services C.3 Training					
D. Input/Output Marketing and Rural Financing	D.1 Input-based Marketing D.2 Rural Financing D.3 Private Sector Development		2.1 Commercial Sector Support 2.2 Cooperative Promotion	3.1 Agro-Mechanisation 3.2 Agro-processing 3.3 Agric. Extension 3.4 Crop Production 3.5 Agric. Research 3.6 Soil Conservation & Fertil. 3.7 Irrigation & water mgt 3.8 Pasture/range mgt 3.9 Range Management 3.10 Animal Health	4.1 Agric. Input (Output market) 4.2 Agro. Market 4.3 Commodity Marketing 4.4 Credit	LAMP (SHDA) SOWCAP (WB) Ag. Mark. (HAP) Madiba (AFPH) Mysimba (HAP) SOPR (HAP)
E. Crosscutting	Manufacturing Financing for Agriculture Development in Other Sectors	e.g. Rural Infrastructure, Health (HSA/IDS), Education, Gender, Youth, Environmental Management				

Note: for ASDS key interventions May 2002 proposal and project examples table refers to "partial"

Table 4: PROPOSED TIME FRAME OF ACTIVITIES RELATED TO ASDP (JULY-DEC. 2002)

	Activity	Start	End
A. GOVERNMENT			
	Government Team (GT): • Draft TORs for GT for July-September tasks • Appoint new GT and get clearance from FASWDC	• Early July • Early July	• Mid-July
FIRST PHASE			
1	ASDP Management (Secretariat Unit): • First Draft TORs and options for operational modalities • Develop proposal in collaboration with FAO/IC mission • Review, approval/endorsement of the proposal, budgeting • Establish ASDP Secretariat unit (legal/institutional aspects) • Secure funds for the running of the unit, start-up of activities	• 01 July • 15 July • mid-Aug • Septemb. • Sept	• 15 July • early Aug. • 31 August • October
2	District Agriculture Development Plans • Prepare TOR for draft guidelines • Recruit consultant to prepare draft guidelines • Develop draft guidelines • Select up to four pilot districts • Use draft guidelines in selected districts for preparing DADP • Develop comprehensive guidelines • Use comprehensive guidelines into MTEF/Y 04	• 01 July • 15 July • 01 August • 15 August • Sept • 2003 • Oct 03	• 15 July • 31 July • 31 Aug • 31 Aug • December • Feb. • March 04
4	District and national database • Collect information on major ongoing and planned ASDP related projects • Identify sources of information for district based projects • Develop a district information data sheet and database • Update database on a continuous basis	• 01 July • 01 July • July • Contin.	• 15 July • 15 July • Sept. • Continuous
5	ASDP Update • Agreement on sub-programmes • Outline content of sub-programmes & components • Prepare indicative cost estimates • Prepare first draft of ASDP update document for internal review • Stakeholder validation • Finalize ASDP Update	• 01 July • 15 July • 15 July • End Aug • Mid-Sept. • Mid Sept.	• 15 July • 31 July • 31 Aug • mid-Sept • End Sept.
SECOND PHASE			
6	Detailed Formulation of ASDP Sub-programmes • Identify partners • Pledges from development partners • Detailed formulation of sub-programmes, components & projects	• Oct. 02 • Oct. 02 • Oct. 02	Continuous Continuous Continuous
B. EXTERNAL ASSISTANCE			
1	FAO-TCP • Send request to FAO • Formulation mission • Document Processing • Approval (estimate)	• End June • 15 July • August • Sep/Oct	• 31 July • Sept.
2	District and national database • Assist GoT in data collection • Assist GoT in data analysis and use into district/MTEF budget process	• 15 July • Sept. 02	• 31 Aug. • Feb. 03
3	ASDP Update • FAO/IC follow up mission • Assistance from locally recruited consultants • 2 nd FAO/IC follow up mission	• 15 July • 15 July • Mid Sept.	• 31 July • 30 Sept. • 30 Sept.

**Table 5: ASDP INPUT INTO NEXT DISTRICT PLANNING (FY 2003)
AND MTEF PROCESS (03/01 - 05/06)**

<u>District:</u>	
District Planning & Budgeting Process (FY 2003)	July-December 02
Abridged Version of DADP Guidelines for preparing up to four DADPs	End of August 02
Select Pilot Districts	September 02
Use DADP Abridged Guidelines into District Planning and Budget Process	Sept. - Dec. 02
Prepare comprehensive guidelines for preparing DADPs for MTEF 03/04-05/06	Oct. - Nov. 02
<u>Annual Budget 03/04 - MTEF</u>	
MTEF process (from preparation to submission to Parliament)	Nov. 02 - June 03
Preparation of fully costed and ceiling budgets	Mid-February 03
Final ASDP with gross (indicative) cost estimates	October 02
Prepare detailed cost estimates for selected sub-programmes and components to feed into MTEF 03/04-05/06 process	Nov. 02 - Feb. 03

Note: national fiscal year from July to June and LRA fiscal year from January to December.